

弘前大学農学生命科学部

研究業績目録

2012年10月 – 2013年9月

Lists of Published Research Works of the Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
2012 (October) – 2013 (September)

弘前大学農学生命科学部

2014年1月

Faculty of Agriculture and Life Science
Hirosaki University
Hirosaki 036 – 8561, Japan
January, 2014

は し が き

本号の「研究業績目録」には、2012年10月から2013年9月までの業績を掲載しました。業績の区分は、a－研究論文、b－学術図書、c－その他の著書・訳書、d－学会発表、e－調査・実験報告書、f－その他、とし、各自の申請に基づいています。各学科の教員組織（2013年9月30日現在）は以下の通りです。

生物学科

（基礎生物学コース）

葛西身延、黒尾正樹、福澤雅志、大河 浩、小林一也、笹部美知子、西野敦雄、吉田 渉

（生態環境コース）

佐原雄二、杉山修一、東 信行、池田紘士、石田 清、鳥丸 猛

分子生命科学科

（生命科学コース）

石黒誠一、菊池英明、橋本 勝、姫野俵太、牛田千里、高田 晃、畠山幸紀、栗田大輔

（応用生命コース）

大町鉄雄、吉田 孝、坂元君年、園木和典、殿内暁夫、濱田茂樹

生物資源学科

（食料開発コース）

石川隆二、千田峰生、戸羽隆宏、原田竹雄、柏木明子、前多隼人

（生産環境コース）

青山正和、佐野輝男、比留間潔、赤田辰治、田中和明、松山信彦、金児 雄

園芸農学科

（園芸農学コース）

荒川 修、鈴木裕之、張 樹槐、松崎正敏、川崎通夫、本多和茂、前田智雄、叶 旭君、
田中紀充

（食農経済コース）

神田健策、渋谷長生、石塚哉史、泉谷眞実、武田共治、吉仲 怜

地域環境工学科

泉 完、工藤 明、佐々木長市、檜垣大助、遠藤 明、加藤 幸、藤崎浩幸、丸居 篤、
森 洋、森谷慈宙

生物共生教育研究センター

伊藤大雄、姜 東鎮、松本和浩、房 家琛

目 次

生物学科	19
基礎生物学コース	19
生態環境コース	20
分子生命科学科	23
生命科学コース	23
応用生命コース	26
生物資源学科	29
食料開発コース	29
生産環境コース	32
園芸農学科	36
園芸農学コース	36
食農経済コース	39
地域環境工学科	42
生物共生教育研究センター	45

業 績 目 録

【生物学科】

【基礎生物学コース】

葛西 身延

- f-01. Kasai M., Takahashi W.: Interaction of photosynthetic source-sink balance and activities of membrane H⁺ pumps in soybean. A Comprehensive Survey of International Soybean Research-Genetics, Physiology, Agronomy and Nitrogen Relationships, Ed., James E. Board, 299-315 (Chapter 14), InTech, 2013.

黒尾 正樹

- a-01. Zheng, Y., R. Peng, R. W. Murphy, M. Kuro-o, L. Hu, X. Zeng: Matrilineal genealogy of *Hynobius* (Caudata: Hynobiidae) and a temporal perspective on varying levels of diversity among lineages of salamanders on the Japanese Islands. *Asian Herpetol. Res.*, **3**: 288-302, 2012.
- d-01. 大野菜摘・長内淳次・黒尾正樹：尾羽が青灰色のチョウゲンボウの幼鳥の性判定. 日本鳥学会 2013 年度大会 (名城大学), 2013.

福澤 雅志

- a-01. Senoo H, Araki T, Fukuzawa M, Williams JG: A new kind of membrane-tethered eukaryotic transcription factor that shares an auto-proteolytic processing mechanism with bacteriophage tail-spike proteins. *Journal of cell science*, 2013. in press.
- d-01. 大橋宏都・森合修也・福澤雅志：細胞性粘菌におけるオス特異的遺伝子ホモログ Ddmid family の機能解析. 東北植物学会第2回大会 (青森大会) 2012. 12. 15-16.
- d-02. 関中 保・田岡和晃・福澤雅志：細胞内カルシウム濃度の異質性と pstA 細胞分化について. 日本細胞性粘菌学会 第2回年会 (東京大学) 2012. 11. 17-18.
- d-03. 石坂綾花・関中 保・福澤雅志：細胞性粘菌の胞子形成における転写因子 Cud の機能. 日本細胞性粘菌学会 第2回年会 (東京大学) 2012. 11. 17-18. ベストプレゼン賞
- d-04. Hiroshi Senoo, Tsuyoshi Araki, Masashi Fukuzawa, Jeffrey G. Williams.: A family of membrane-tethered eukaryotic transcription factors shares an auto-proteolytic processing mechanism with structural proteins. 日本細胞性粘菌学会 第2回年会 (東京大学), 2012. 11. 17-18.
- e-01. 福澤雅志：細胞性粘菌のオーガナイザー形成と細胞分化にかかわる遺伝子の同定. 基礎生物学研究所共同利用研究報告書, 2012.

大河 浩

- d-01. 柿崎かおり・似内菜月・鬼頭 薫・信平華寿・和田みさき・田中康史・大久保星花・前多隼人・大河 浩：青森県域における微細藻とストレス耐性藻探索への試み. 第2回東北植物学会大会 (弘前), 2012.
- d-02. 田中康史・川崎通夫・大河 浩：プラスチド局在性輸送体遺伝子 *cemA2* の発現・機能解析. 第2回東北植物学会大会 (弘前), 2012.
- d-03. 信平華寿・大久保星花・田中康史・大河 浩：トマト果実における PEPC 遺伝子発現および酵素活性に及ぼす塩ストレスの影響. 第2回東北植物学会大会 (弘前), 2012.
- d-04. 田中康史・大河 浩：プラスチド局在性 *cemA2* の発現特性と役割. 第77回日本植物学会 (札幌), 2013.
- e-01. 大河 浩：トマトの炭素代謝から見た C/N 分配における塩ストレスの影響. *The Salt Science Research foundation annual research report 2010 (Physical Science, Engineering Agriculture, Biology)*. 2012.
- f-01. 大河 浩：「生命科学分野における必要な基礎教育」に関する意見交換 (生物学) 21世紀教育センターニュース, 2013.

小林 一也

- d-01. 小林一也：接木実験から出発したプラナリアの実験的有性化. 東北植物学会 第2回大会 (弘前), 2012. (招待講演)

- d-02. Maezawa, T., Tanaka, H., Kobayashi, K.: Switching from asexual to sexual reproduction in the planarian *Dugesia ryukyuensis*: The role of D-amino acid oxidase. 46th Annual Meeting for the Japanese Society of Developmental Biologists, Matsue, Japan, 2013. (招待講演)
- d-03. 小林一也: プラナリア無性個体を有性化する化学物質について. 動植物アロ認証 第7回領域会議, 松江, 2013. (招待講演)
- d-04. 石川正樹・前澤孝信・小林一也: プラナリア生殖器官に特異的に発現するアミノ酸トランスポーターについて. 日本動物学会平成25年度東北支部大会 (秋田), 2013.
- d-05. 菊池康哉・前澤孝信・織井秀文・小林一也: プラナリアβ-カテニン遺伝子, *Dr-βCAT1* および *Dr-βCAT2* の生殖器官分化に注目した発現/機能解析. 日本動物学会平成25年度東北支部大会 (秋田), 2013.

笹部 美知子

- a-01. Murata, T., Sano, T., Sasabe, M., Nonaka, S., Higashiyama, T., Hasezawa, S., Machida, Y., Hasebe, M.: Mechanism of microtubule array expansion in the cytokinetic phragmoplast. *Nature Communications*, **4**: 1967, 2013.
- a-02. Sasabe, M., Machida, Y.: Regulation of organization and function of microtubules by the mitogen-activated protein kinase cascade during plant cytokinesis. *Cytoskeleton*, **69**: 913-918, 2012.
- d-01. 笹部美知子・西村慎吾・松永幸大・町田泰則: 細胞質分裂を制御するMAPキナーゼにリン酸化されるキネシタンパク質の機能解析. 日本植物学会第77回大会 (北海道大学), 2012.
- d-02. 笹部美知子, 南 明希, 中野理恵, 町田泰則: 植物の細胞質分裂を制御する新しい因子の同定: 植物の細胞質分裂を制御するNACK1と相互作用するPP2C様プロテインホスファターゼの解析. 第54回日本植物生理学会年会 (岡山大学), 2012.
- d-03. 笹部美知子・南 明希・中野理恵・町田泰則: 植物の細胞質分裂を制御する新しい因子の探索: 細胞質分裂を制御するキネシン様タンパク質と相互作用するプロテインホスファターゼ. 東北植物学会第2回大会 (弘前大学), 2012.
- d-04. 笹部美知子・南 明希・中野理恵・町田泰則: 連続的なリン酸化による植物細胞質分裂の制御. 第35回日本分子生物学会年会 (福岡国際会議場・マリンメッセ福岡), 2012.

西野 敦雄

- a-01. Omotezako, T., A. Nishino, T. A. Onuma, H. Nishida: RNA interference in the appendicularian, *Oikopleura dioica*, reveals the function of the *Brachyury* gene. *Dev. Genes Evol.*, **223**: 261-267, 2013.
- b-01. 西野敦雄: アナログかデジタルか? 滑らかな動きを生む進化. 生命誌 年刊号 vol.69-72「遊ぶ」. JT生命誌研究館, 新曜社. pp. 161-167. 2012.
- d-01. 大塚玄航・西野敦雄・中島啓介・広瀬裕一: 尾虫綱全3科における尾部微細構造の比較. 日本動物学会第84回大会 (岡山大学), 2013.
- d-02. Omotezako, T., A. Nishino, T. A. Onuma, H. Nishida: RNA interference method in appendicularian *Oikopleura dioica*. The 7th International Tunicate Meeting (Naples, Italy), 2013.

吉田 渉

- a-01. Yoshida, W., L. Lu, C. Sasaki, S. Ishida: The first record of two freshwater planarians (*Phagocata sibirica*, *Phagocata* sp.) from Mt. Changbai water system in China. *SHIRAKAMI-SANCHI* **2**: 1-8, 2013.
- f-01. 吉田 渉: 淡水棲プラナリアの分子系統 (18S rRNA) と核型. 染色体学会2012年度 (第63回) 年会. 公開シンポジウム「生物多様性保全と染色体研究」(旭川), 2012.
- f-02. 吉田 渉・渋谷長生: 高級水産食材 (アワビ, ナマコ) の陸上養殖事業化. 第28回寒地技術シンポジウム (弘前), 2012.
- f-03. Yoshida, W., S. Nishitani, D. Okano, S. Ishida: Molecular phylogenetic relationship and karyotypes of freshwater planarians (Platyhelminthes: Tricladida). *Chromosome Sci.*, **15**: 77, 2012.

【生態環境コース】

佐原 雄二

- d-01. 中濱翔太・佐原雄二: カイツブリにおけるヒナ分け—ヒナ側による親選択. 日本鳥学会2013年度大会, 2013.

- d-02. 田中太一・小笠原義之・佐原雄二：ゴイサギの繁殖生態に親の年齢が与える影響。日本鳥学会2013年度大会, 2013.
- d-03. 稲田麻理・佐原雄二：溜池におけるオオバンの採餌生態。日本生態学会2012年度大会, 2013.
- e-01. 佐原雄二：動物とヒトの交差点。第11回～第33回。陸奥新報連載記事。2013.

杉山 修一

- a-01. Liu GC, Tokida T, Matsunami T, Nakamura H, Okada M, Sameshima R, Hasegawa T, Sugiyama S: Stimulated CH₄ emission and responses of methanogenic archaea community in a rice paddy under free-air CO₂ enrichment and soil warming. *Environmental Microbiology Report*, **4**: 648-646, 2012.
- b-01. 杉山修一：すごい畑のすごい土。幻冬舎新書, 2013.
- c-01. 杉山修一：論文が外国雑誌に受理されるために。日本草地学会誌, **59**: 151-152. 2013.
- d-01. 中野敬護・杉山修一：温暖化ストレスに対するオーチャードグラスの集団分化。日本草地学会2012年度大会（山形大学）, 2013.
- d-02. 川端彩世・杉山修一：土壌細菌群集構造は栽培される作物種によってどのように変化するか。日本土壌微生物学会2013年度大会（東京農工大学）, 2013.
- d-03. 今井達也・杉山修一：土壌要因と地上部植生が菌根菌群集に与える影響。日本土壌微生物学会2013年度大会（東京農工大学）, 2013.

東 信行

- a-01. 佐藤 臨・東 信行：人為的管理がヨシ原の地表性甲虫群集に与える影響。白神研究9: 11-19, 2013.
- a-02. 佐藤 臨・東 信行：堤外地におけるヨシ原植生管理の違いがもたらす食物連鎖と物質循環の特性。河川技術論文19: 447-452, 2013.
- a-03. 泉 完・大田敏貴・東 信行：河川水を用いた遊泳実験によるシロウオの遊泳能力と尾部の動き。農業農村工学会論文集283: 41-50, 2013.
- d-01. 水野直樹・池島 耕・和田 実・東 信行：ヒイラギ科魚類の発光 —ヒイラギの成熟と発光器の発達。平成24年日本水産学会秋季大会, 2012.
- d-02. 佐藤 臨・鎌田帆南・坂 有紀子・渡邊 泉・東 信行：生体内元素分析を用いたヨシ原の生物群集における食物網解析。第60回日本生態学会大会, 2013.
- d-03. 竹谷栄亮・野田香織・渡辺 泉・坂 有希子・東 信行：青森県津軽地方に生息するノスリの羽を用いた重金属モニタリング方法の検討。第60回日本生態学会大会, 2013.
- d-04. 馬場里美・野田香織・河野冬樹・渡邊 泉・工藤誠也・井上博元・東 信行：青森県岩木川のダム下流域における河川水及びPOM, 水生生物中微量元素の分析。第60回日本生態学会大会, 2013.
- d-05. 井上博元・野田香織・渡邊 泉・東 信行：魚類組織中の元素濃度と生息する水中元素濃度の関係。第22回環境化学討論会, 2013.
- d-06. 高橋雅雄・森本 元・岡久雄二・高木憲太郎・蛭名純一・宮 彰男・東 信行ほか：日本国内にコジュリンは何羽生息しているのか？。日本鳥学会2013年度大会, 2013.
- d-07. 坂 有希子・蛭名純一・作山宗樹・三上かつら・東 信行：オオセッカの羽毛微量元素分析を用いた移動履歴解明手法の開発。日本鳥学会2013年度大会, 2013.
- d-08. 原 星一・山下晃司・堀田昌伸・泉山茂之・東 信行：新たな生息地リング果樹園で繁殖するアカモズ。日本鳥学会2013年度大会, 2013.
- d-09. 坂 有希子・蛭名純一・作山宗樹・三上かつら・東 信行：羽毛微量元素分析を用いた草原棲希少小型鳥類の繁殖地判別。応用生態工学会第17回研究発表会, 2013.

池田 紘士

- a-01. Kanzaki, N., R. Tanaka, H. Ikeda, H. Taki, S. Sugiura, K. Matsumoto: Phylogenetic status of insect parasitism in the subfamily Entaphelenchinae Nickle with description of *Peraphelenchus orientalis* N. SP. (Tylenchomorpha: Aphelenchoididae). *Journal of Parasitology*, **99**: 639-649, 2013.
- a-02. Sugiura, S., H. Ikeda: Which insect species numerically respond to allochthonous inputs? *Naturwissenschaften*, **100**: 749-759, 2013.

石田 清

- a-01. Torimaru, T., Akada, S., Ishida, K., Matsuda, S., Narita M: Spatial associations among major tree species in a cool-temperate forest community under heterogeneous topography and canopy conditions. *Population Ecology*, **55**: 261-275, 2013.
- d-01. 井上みずき・石田 清：雌雄異株植物ヤチヤナギは性転換するのか？ 第60回日本生態学会大会（静岡・グランシップ）, 2013.
- d-02. 加藤禎孝・石田 清・菊地淳一・鳥居春己：イラクサ (*Urtica thunbergiana*) の刺毛形質の表現型可塑性：ニホンジカ (*Cervus nippon*) の採食圧の影響. 第60回日本生態学会大会（静岡・グランシップ）, 2013.
- d-03. 川村 航・石田 清・高田克彦・野堀嘉裕：ブナの肥大成長に及ぼす晩霜害の影響. 第124回日本森林学会大会（岩手大学）, 2013.
- f-01. 川村 航・石田 清・高田克彦・野堀嘉裕：ブナの肥大成長に及ぼす晩霜害の影響. 東北森林生態談話会（宮城）, 2013.
- f-02. 世古綾香・石田 清：本州に隔離分布するエゾノウミズザクラ個体群の構造と繁殖様式. 東北森林生態談話会（宮城）, 2013.
- f-03. 貞賀 恵・石田 清：ブナ林におけるタムシバの更新様式と近交弱勢. 東北森林生態談話会（宮城）, 2013.
- f-04. 宮崎大志・石田 清：ブナの開花時期と消雪時期が種子食昆虫群集に及ぼす影響. 東北森林生態談話会（宮城）, 2013.

鳥丸 猛

- a-01. Torimaru, T., S. Akada, K. Ishida, S. Matsuda, M. Narita: Spatial associations among major species in a cool-temperate forest community under heterogeneous topography and canopy conditions. *Population Ecology*, **55**: 261-275, 2013.
- a-02. Torimaru T., A. Itaya, S-I. Yamamoto: Quantification of repeated gap formation events and their spatial patterns in three types of old-growth forests: Analysis of long-term canopy dynamics using aerial photographs and digital surface models. *Forest Ecology and Management*, 284: 1-11, 2012.
- d-01. 鳥丸 猛：異なる繁殖量をもつ個体の空間構造が花粉散布パターンに及ぼす効果. 第60回日本生態学会大会（静岡）, 2012.
- d-02. 岡山 巧・成田真智子・鳥丸 猛：白神山地高倉森におけるハウチワカエデ稚樹集団のクローン構造と遺伝構造. 第124回日本森林学会大会（岩手大学）, 2013.
- d-03. 福原 興・鳥丸 猛：孤立したブナ天然林に隣接するスギ人工林内の広葉樹天然更新の現状. 第124回日本森林学会大会（岩手大学）, 2013.
- d-04. 鳥丸 猛・齋藤 晶・永松 大・松下通也：RDA法を用いたヒメアオキの性特異的ゲノム領域の探索. 第124回日本森林学会大会（岩手大学）, 2013.
- d-05. 稲永路子・中西敦史・鳥丸 猛・西村尚之・戸丸信弘：異なる生育段階において推定されたブナの花粉散布パターンの比較. 第124回日本森林学会大会（岩手大学）, 2013.
- f-01. 鳥丸 猛：方角を考慮に入れた採種園の花粉流動. 森林遺伝学若手勉強会（千葉）, 2013.
- f-02. 金井大地・鳥丸 猛：白神山地高倉森およびサンスケ沢におけるチシマザサのクローン多様性と空間分布. 東北森林生態談話会（宮城）, 2013.

【分子生命科学科】

【生命科学コース】

石黒 誠一

- a-01. Ozaki, T., Ishiguro S., Itoh H., Furuhashi K., Nakazawa M., Yamashita T.: Cisplatin binding and inactivation of mitochondrial glutamate oxaloacetate transaminase in cisplatin-induced rat nephrotoxicity. *Biosci Biotechnol Biochem* 77 (8): 1645–1649, 2013.
- a-02. Taku Ozaki, Sei-ichi Ishiguro, Satoshi Hirano, Ayaka Baba, Tetsuro Yamashita, Hiroshi Tomita, Mitsuru Nakazawa: Inhibitory peptide of mitochondrial μ -calpain protects against photoreceptor degeneration in rhodopsin transgenic S334ter and P23H rats. *PLoS ONE* 8 (8): e71650. doi: 10.1371/journal.pone.0071650, 2013.
- a-03. Taku Ozaki, Mitsuru Nakazawa, Tetsuro Yamashita, Hiroshi Tomita, Yuichi Ebina, and Sei-ichi Ishiguro: Decrease of ATP by Mitochondrial m-calpain Inhibitory Peptide in the Rat Retinas. *Cell Structure and Function* 38: 205–221, 2013.
- d-01. 上野嵩登・尾崎 拓・中澤 満・山下哲郎・石黒誠一：網膜視細胞変性を抑制するペプチドの点眼による網膜への送達経路. 日本動物学会第84回大会（岡山大学），2013.
- d-02. 尾崎 拓・石黒誠一・伊藤 優・山下哲郎・中澤 満：ミトコンドリア μ -カルパイン阻害による虚血性網膜神経節細胞死の保護. 日本生化学会第86回大会（パシフィコ横浜），2013.

菊池 英明

- a-01. Otori, H., Higashiyama, T., Uehara, A., Kainuma, M., Kudo, Y., Kon, T., Mochitate, K., Kikuchi, H., Y. Furuya: Signal change of surface acoustic wave (SAW) by H₂O₂ damage to SV40-T2 cells cultivated on SH-SAW Sensor. *Sensors and Actuators A* **200**, 162–167, 2013.
- a-02. Kasaia, S., Ishigaki, T., Takumi, R., Kamimura, T., H. Kikuchi: β -catenin signaling induces CYP1A1 expression by disrupting adherens junctions in Caco-2 human colon carcinoma cells. *Biochim. Biophys. Acta*, **1830**, 2509–2516, 2013.
- a-03. Matsumiya T, Xing F, Ebina M, Hayakari R, Imaizumi T, Yoshida H, Kikuchi H, Topham MK, Satoh K, Stafforini DM: Novel Role for Molecular Transporter Importin 9 in Posttranscriptional Regulation of IFN- ϵ Expression. *J. Immunol.* **200**, 1907–1915, 2013.
- d-01. 下山修司・葛西秋宅・菊池英明：CYP1A1転写におけるPP2Aを介したSp1のSer-59の脱リン酸化の関与. 第35回日本分子生物学会年会（福岡），2012.
- d-02. 勝山明裕・下山修司・菊池英明：パツリンによるClaudin-4のリン酸化とDEP-1の機能阻害. 第35回日本分子生物学会年会（福岡），2012.
- d-03. 赤坂遼平・石垣貴則・葛西秋宅・下山修司・菊池英明：AhRの調節領域に対する β -cateninの関与. 第35回日本分子生物学会年会（福岡），2012.
- d-04. 東山拓海・大島秀貴・工藤優佳子・磯野晶宏・今 大健・持立克身・菊池英明・古屋泰文：SH-SAW 電極間に培養したSV40-T2細胞の薬液損傷モニタリング, 第22回インテリジェント材料/システムシンポジウム（東京），2013.

橋本 勝

- a-01. Yasumura, R.; Ashtekar, K. D.; Tonouchi, A.; Nehira, T.; Borhan, B.; Hashimoto, M.: “7-b- and 10-b-Hydroxylated congeners of CAF-603; elucidation of absolute configuration of CAF-603 family, and their SAR studies in the anti-fungal activity”, *Tetrahedron* **69**, 9469–9474 (2013).
- a-02. Takekawa, H.; Tanaka, K.; Fukushi, E.; Nehira, T.; Hashimoto, M.: Roussoellols A and B, Tetracyclic Fusicocanes from *Roussoella hysterooides*, *J. Nat. Prod.*, **76**, 1047–1051 (2013).
- a-03. Takada, N.; Wakita, E.; Yamazaki, E.; Hashimoto, M.; Koda, Y. T.: Methyl 3-iso-cucurbitate, a potential bolting inhibitor to *Brassica rapa*, *Tetrahedron* **69**, 5426–5430 (2013).
- c-01. 橋本 勝：Spartanの化学シフト計算による天然物の構造決定, *Wavefunction User Letter* No4.
- d-01. 橋本 勝・竹川大登・田中和明・福士江里・松尾光一・根平達夫, 「Roussoellols A及びBの構造決定」, 日本農芸化学会2013年度大会（2013. 03. 25, 仙台）

- d-02. 広瀬あかね・村上貴宣・橋本 勝, 「リンゴ果実上におけるマイコパラサイト機構の全容解明」, 日本農芸化学会2013年度大会 (2013. 03. 25, 仙台)
- d-03. 六車美沙・本間美保・橋本 勝, 「旧Fengycin構造の合成研究」, 日本農芸化学会2013年度大会 (2013. 03. 25, 仙台)
- d-04. 村井嘉晃・高橋萌子・坂元君年・橋本 勝, 「Norleptosholの合成研究」, 日本農芸化学会2013年度大会 (2013. 03. 26, 仙台)
- d-05. 橋本 勝, 「計算機支援による天然物の構造決定」, 第8回化学生態学研究会 (2013. 06. 28, 函館)
- d-06. 広瀬あかね・村上貴宣・橋本 勝, 「リンゴ果実におけるマイコパラサイト現象の機構解明」, 第55回天然有機化合物討論会 (2013. 09. 18, 京都)
- d-07. 六車美沙・本間美保・橋本 勝, 「Plipastatin/Fengycin構造混乱の終結(3) D-Tyr4-L-Tyr10異性体の合成」, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (2012. 10. 07, 弘前)
- d-08. 村井嘉晃・八木橋優希・橋本 勝, 「norleptoshol Cの全合成研究」, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (2012. 10. 07, 弘前)
- d-09. 大場雄貴・久守未央奈・秋山奈菜子・橋本 勝, 「シクロプロパンを組み込んだセルラーゼ反応遷移状態アナログの合成研究」, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (2012. 10. 07, 弘前)
- d-10. 安村良子・殿内暁夫, 「Trichoderma sp. の生産するテルペン類とステロイド様物質の構造決定」, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (2012. 10. 07, 弘前)
- d-11. 橋本 勝・竹川大登・田中和明・福土江里・根平達夫, 「新規4環式フシコカンRoussellols A, Bの構造」, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (2012. 10. 07, 弘前)
- d-12. 竹川大登・橋本 勝・殿内暁夫・根平達夫, 「子囊菌Chaetomium sp. の生産する抗菌物質の構造」, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (2012. 10. 07, 弘前)
- d-13. 広瀬あかね・工藤慎士・村上貴宣・橋本 勝, 「Lambertella属によるマイコパラサイト現象の解明」, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (2012. 10. 07, 弘前)
- d-14. 橋本 勝, 「セルラーゼ機構解明を目指したオリゴ糖ミミックの開発研究」, 第6回東北糖鎖研究会 (2012. 10. 13)
- d-15. 池田達也・田邊直也・橋本 勝, 「セルラーゼを選択的に阻害する抗シロアリ剤の開発」, 第6回東北糖鎖研究会 (2012. 10. 13)
- d-16. 久守未央奈・大場雄貴・橋本 勝, 「セルラーゼ反応遷移状態構造を組み込んだ分子プローブの開発」, 第6回東北糖鎖研究会 (2012. 10. 13)
- d-17. 橋本 勝, 「津軽地方の微生物の生産する二次代謝物—構造決定を中心に—」(招待講演), 熊本大学薬学部講演会 (2012. 10. 29, 熊本)

姫野 俵太

- a-01. Guo, Q., Goto, S., Chen, Y., Feng, B., Xu, Y., Muto, A., Himeno, H., Deng, H., Lei, J., Gao, N.: Dissecting the in vivo assembly of the 30S ribosomal subunit reveals the role of RimM and general features of the assembly process. *Nucleic Acids Res.*, **41**: 2609–2620, 2013.
- a-02. Goto, S., Muto, A., Himeno, H.: GTPases involved in bacterial ribosome maturation. *J. Biochem.*, **153**: 403–414, 2013.
- a-03. Hase, Y., Tarusawa, T., Muto, A., Himeno, H.: Impairment of ribosome maturation or function confers salt resistance on *Escherichia coli* cells. *PLoS One*, **8**: e65747, 2013.
- b-01. 姫野俵太・栗田大輔・武藤 昱: 2つの機能を有するtmRNAによる細菌の翻訳解消システム, 生命分子を統合するRNA—その秘められた役割と制御機構, 実験医学増刊, Vol. 31, No. 7, 54–60, 羊土社, 2013.
- d-01. 樽澤武房・長谷要一・武藤あきら・姫野俵太: 大腸菌細胞のリボソーム異常が引き起こす高浸透圧耐性, 日本農芸化学会東北支部第147回大会 (弘前大学), 2013.
- d-02. 姫野俵太: 2つのtRNA/mRNAハイブリッドによるトランストランスレーション, 清水幹夫先生・傘寿記念ミニシンポジウム『生命の起源に魅せられて』(東京薬科大学), 2012.
- d-03. 後藤史門・武藤あきら・姫野俵太: 細菌リボソーム30Sサブユニットの生合成に関与する因子群の機能, 第2回Ribosome Meeting (東京農工大学), 2013.
- d-04. 樽澤武房・長谷要一・後藤史門・武藤あきら・姫野俵太: リボソームを介した浸透圧耐性機構, 第2回Ribosome Meeting (東京農工大学), 2013.
- d-05. 栗田大輔・Mickey Miller・武藤 昱・Allen Buskirk・姫野俵太: tmRNA/SmpBによる停滞したリボソームの認識機構, 第2回Ribosome Meeting (東京農工大学), 2013.

- d-06. 後藤史門・武藤 昱・姫野俵太：GTPase RsgAの機能と大腸菌リボソーム生合成の過程，第10回大腸菌研究会（修善寺），2013.
- d-07. Kurita, D., Miller, M.R., Muto, A., Buskirk, A.R., Himeno, H.: Recognition of mRNA length on the ribosome by tmRNA and SmpB. Ribosomes Conference 2013, Napa Valley, California, 2013.
- d-08. 後藤史門・長谷要一・菊地岳志・栗田大輔・武藤 昱・竹本千重・横山茂之・Sean R. Connell・Paola Fucini・姫野俵太：RsgA（リボソーム小サブユニット依存GTP加水分解酵素）の機能およびリボソームとの相互作用，第15回日本RNA学会年会（松山），2013.
- f-01. 姫野俵太：トランストランスレーションの研究，弘前大学学術特別賞講演会，2013.
- f-02. 姫野俵太：研究室紹介，弘前大学学園だより，Vol. 177, 20-21, 2013.

牛田 千里

- d-01. 奥居沙弥・牛田千里・清澤秀孔・河合剛太：マウス由来の新規低分子RNAの構造的特徴の解析（名古屋），2012.
- d-02. Chisato Ushida, Arata Kato, Kiyooki Sato, Daiki Takahashi, Hyouta Himeno, Akira Muto : The enrichment of *C. elegans* SL1 and SmY-10 RNAs suggests more active *trans*-splicing in germ cells than in somatic cells. 第35回日本分子生物学会年会（福岡），2012.
- d-03. 奥居沙弥・牛田千里・清澤秀孔・河合剛太：マウス脳から発現する50-100残基RNAのクラスタリングと構造解析. 第35回日本分子生物学会年会（福岡），2012.
- d-04. Novel spermatogenesis-defective gene candidates. Takashi Koyama, Megumi Endo, Yusuke Hokii, Chisato Ushida. 19th International *C. elegans* meeting. (Los Angeles, USA), 2013.
- d-05. Mamoru Usuyama, Yuishi Iwasaki, Chisato Ushida, Ryuzo Shingai. A computational model of the intracellular signaling pathway for odor receptor neuron in *C. elegans*. 19th International *C. elegans* meeting. (Los Angeles, USA), 2013.
- d-06. 牛田千里・大坂朋子・渡邊幸子・木原真哉：線虫sbRNA欠損株の表現型解析. 第15回日本RNA学会年会（松山），2013.
- d-07. 奥居沙弥・鈴木穰・加藤英政・牛田千里・清澤秀孔・河合剛太：RNA 構造スクリーニングのためのNMR 試験管内転写法の開発. 第15回日本RNA学会年会（松山），2013.
- f-01. 牛田千里：北東北男女共同参画シンポジウム パネリスト，2013.
- f-02. 牛田千里：読売新聞，教育ルネサンス「弘前大の実力〜リケジョ編①」インタビュー，2013.

高田 晃

- a-01. Takada, N., E. Wakita, E. Yamazaki, M. Hashimoto, Y. Koda: Methyl 3-*iso*-cucurbitate, a potential bolting inhibitor to *Brassica rapa*. *Tetrahedron*, **69**: 5426-5430, 2013.

畠山 幸紀

- f-01. 畠山幸紀：高解像度動物標本画像を用いた教育用Webサイトの公開。
<http://nature.cc.hirosaki-u.ac.jp/lab/2/celltech/specimen/DEEPZOOM/>, 2013.

栗田 大輔

- b-01. 姫野俵太・栗田大輔・武藤 昱：2つの機能を有するtmRNAによる細菌の翻訳停滞解消システム，実験医学，31巻・7号，54-60，2013
- d-01. 栗田大輔・Miller, M.・武藤 昱・Buskirk, A.・姫野俵太：tmRNA/SmpBによる停滞したリボソームの認識機構，第2回RIBOSOME MEETING（東京農工大），2013
- d-02. 後藤史門・長谷要一・菊地岳志・栗田大輔・武藤 昱・竹本千重・横山茂之・Connell, S.R.・Fucini, P.・姫野俵太：RsgA（リボソーム小サブユニット依存GTP加水分解酵素）の機能およびリボソームとの相互作用，第15回日本RNA学会年会（愛媛県民文化会館），2013
- d-03. Kurita, D., Miller, M., Muto A., Buskirk, A., Himeno H.: Recognition of mRNA length on the ribosome by tmRNA and SmpB, Ribosomes Napa Valley Conference 2013 (Silverado Resort and Spa), 2013
- e-01. 栗田大輔：大腸菌トランス・トランスレーションの分子メカニズムの解明. 平成23~26年度科学研究費（若手研究(B)）研究成果報告書，2013

【応用生命コース】

大町 鉄雄

- d-1. 関場惇史・板垣祥子・大町鉄雄：細胞性粘菌 acetoacetyl-CoA thiolase の細胞内局在性の新たな展開. 日本農芸化学会東北支部大会（弘前）. 平成24年10月
- d-2. 関場惇史・板垣祥子・伊勢崎奈々・長山耕己・大町鉄雄：細胞性粘菌アセトアセチル-CoA チオラーゼは dual-localizing 酵素である. 第85回日本生化学会大会（福岡）. 平成24年12月
- d-3. 菊地 望・長山耕己・大町鉄雄：細胞性粘菌における a-MPP の相同遺伝子 mppA2 の構造解析. 日本農芸化学会2013年度大会（仙台）. 平成25年3月
- d-4. 関場惇史・板垣祥子・大町鉄雄：細胞性粘菌における acetoacetyl-CoA thiolase の dual localization について. 日本農芸化学会2013年度大会（仙台）. 平成25年3月

吉田 孝

- c-01. 吉田 孝：マンノースとマンノシダーゼの最近の話題. 日本応用糖質科学会誌, 3巻73-76頁（2013）.
- d-01. 鈴木 潤・北山 昂・児島 薫・吉田 孝：軟骨魚類由来プロテオグリカンの新規抽出法の検討. 日本農芸化学会東北支部第147回大会（2012年10月, 弘前）.
- d-02. 佐藤将太・吉田 孝：半身萎凋病菌 *Verticillium dahliae* 由来キシログルカナーゼの作用様式. 日本農芸化学会東北支部若手の会（2012年10月, 弘前）.
- d-03. 佐藤将太・佐々木良幸・児島 薫・吉田 孝：*Fusarium* 属菌由来キシログルカナーゼの精製と性質. 日本農芸化学会2013年度大会（2013年3月, 仙台）.
- d-04. 山口貴央・山崎信広・栄沢大樹・前川公希・小川 俊・塩田一磨・吉田 孝：糸状菌イソマルターゼの発現と特性解析. 日本農芸化学会2013年度大会（2013年3月, 仙台）.
- d-05. 小川 俊・塩田一磨・吉田 孝：*Geobacillus thermoglucosidasius* 由来 Oligo-1, 6-glucosidase のグルコース耐性向上を目指した蛋白質工学的研究. 日本農芸化学会2013年度大会（2013年3月, 仙台）.
- d-06. 佐藤将太・児島 薫・吉田 孝：イネいもち病菌 *Pyricularia oryzae* 由来キシログルカン分解酵素のユニークな作用様式. 日本応用糖質科学会東北支部会（2013年7月, 米沢）.

坂元 君年

- a-01. Saimoto, H., Kido, Y., Haga, Y., Sakamoto, K., Kita, K.: Pharmacophore identification of ascofuranone, potent inhibitor of cyanide-insensitive alternative oxidase of *Trypanosoma brucei*. J. Biochem., **153**: 267-273, 2012.
- a-02. Goto, M., Amino, H., Nakajima, M., Tsuji, N., Sakamoto, K., Kita, K.: Cloning and characterization of hypoxia-inducible factor-1 subunits from *Ascaris suum* - A parasitic nematode highly adapted to changes of oxygen conditions during its life cycle. Gene **516**: 39-47, 2013.
- a-03. Shiba, T., Kido, Y., Sakamoto, K., Inaoka, DK., Tsuge, C., Tatsumi, R., Takahashi, G., Balogun, EO., Nara, T., Aoki, T., Honma, T., Tanaka, A., Inoue, M., Matsuoka, S., Saimoto, H., Moore, AL., Harada, S., Kita, K.: Structure of the trypanosome cyanide-insensitive alternative oxidase. Proc. Natl. Acad. Sci. USA **110**: 4580-4585, 2013.
- a-04. Miura, S., Kai, Y., Tadaishi, M., Tokutake, Y., Sakamoto, K., Bruce, CR., Febbraio, MA., Kita, K., Chohnan, S., Ezaki, O.: Marked phenotypic differences of endurance performance and exercise-induced oxygen consumption between AMPK and LKB1 deficiency in mouse skeletal muscle: changes occurring in the diaphragm. Am. J. Physiol. Endocrinol. Metab. **305**: E213-229, 2013.
- d-01. 坂元君年：ミトコンドリア呼吸鎖の低酸素適応. 日本農芸化学会東北支部 第14回若手の会（ロマンピア・弘前）, 2013.
- d-02. 前 善之・松崎素道・北 潔・Fevzi Daldal・坂元君年： α -プロテオバクテリアにおけるユビキノン生合成関連モノオキシゲナーゼ *ubiF*, *ubiH* の判別. 第86回日本生化学会大会（パシフィコ横浜）, 2013.
- d-03. 福士実咲・柴谷恵太・Hendri Aldrat・北 潔・Fevzi Daldal・坂元君年：*Rhodobacter capsulatus* と *Rhodospirillum rubrum* 間でのキメラ型コハク酸—ユビキノン還元酵素の作製. 第86回日本生化学会大会（パシフィコ横浜）, 2013.

園木 和典

- a-01. Mikami M, Sonoki T, Ito M, Funasawa Y, Suzuki T, Katagata Y. Glycosylation of tyrosinase is one of the

- determinants of melanin production in cultured melanoma cells. *Molecular Medicine Reports*. 8:818–822. 2013.
- a-02. Sonoki T, Furukawa T, Jindo K, Suto K, Aoyama M, Sanchez-Monedero MA. Influence of biochar addition on methane metabolism during thermophilic phase in composting. *Journal of Basic Microbiology*. 53:617–621. 2013.
- d-01. 園木和典・諸岡深雪：Protocatechuate decarboxylase 反応の強化とバイオマスを原料とした *cis*、*cis*-ムコン酸生産の効率化. 日本生物工学会2013年大会. 2013.
- d-02. 古川 徹・濁川 睦・古川佳世子・小口太一・飯村洋介・伊藤幸博・園木和典：担子菌ラッカーゼを発現させた植物細胞壁の組成変化. 日本生物工学会2013年大会. 2013.
- d-03. 古川佳世子・濁川 睦・園木和典・伊藤幸博：老化特異的セルラーゼ発現誘導による稲わら糖化性の向上. 日本生物工学会2013年大会. 2013.
- d-04. 古川佳世子・濁川 睦・園木和典・伊藤幸博：老化誘導プロモーターとセルラーゼを用いた高糖化性イネの開発. 第31回日本植物分子生物学会. 2013.
- d-05. 古川佳世子・濁川 睦・園木和典・伊藤幸博：老化誘導プロモーターとセルラーゼを用いた高糖化性イネの作出. 第35回日本分子生物学会年会. 2012.
- d-06. 鈴木由麻・佐藤 圭・大山葉子・園木和典：ブタノールおよび乳酸合成の抑制によるリンゴ搾り粕を原料としたバイオ水素生産の効率化. 日本生物工学会2012年大会. 2012.
- d-07. 鈴木由麻・佐藤 圭・大山葉子・園木和典：ブタノールおよび乳酸合成の抑制によるリンゴ搾り粕を原料としたバイオ水素生産の効率化. 日本農芸化学会東北支部第147回大会. 2012.
- d-08. 佐藤 圭・鈴木由麻・佐藤夕貴・園木和典：*Clostridium beijerinckii* HU-1株の水素生産能力評価と関連遺伝子解析. 日本農芸化学会東北支部第147回大会. 2012.
- d-09. 古川 徹・古川佳世子・濁川 睦・小口太一・飯村洋介・梶田真也・伊藤幸博・園木和典：担子菌ラッカーゼ発現イネの細胞壁組成の評価. 日本農芸化学会東北支部第147回大会. 2012.
- d-10. 三上真理・園木和典・伊藤美夏瀬・鈴木民夫・片方陽太郎：メラノーマ細胞のメラニン産生制御機構の解明. 日本農芸化学会東北支部第147回大会. 2012.
- e-01. 園木和典：平成24年度弘前大学若手研究者支援事業実績報告書. 2012.
- f-01. 園木和典・飯村洋介・梶田真也・伊藤幸博・小口太一：植物に含まれるリグニン含量を低減させる方法. 特開2013-179877. 2013.
- f-02. 鈴木由麻・園木和典：2013. 青森県土壌より単離した *Clostridium beijerinckii* HU-1 によるりんご搾り粕を原料とした水素発酵. 水素エネルギー協会誌. 38 (1), 9–13. 2013.
- f-03. 園木和典：糖化性の高い植物の分子育種を目指した改良型リグニン分解酵素遺伝子の作出：形質転換植物デザイン研究拠点平成24年度成果報告会. 2013.
- f-04. 園木和典：生物資源活用の現状と課題：農村リーダー育成事業アグリカレッジ, 2013.

殿内 暁夫

- a-01. Sasaki, C., Sasaki, N., Matsuyama, N., Tonouchi, A. and Sase, T. (2013). Characteristics of brown forest soil in Shirakami Natural Science Park in southwest Aomori Prefecture, Japan. *Shirakami Sanchi* **2**, 9–15.
- a-02. Yasumura, R., Ashtekar, K., Tonouchi, A., Nehira, T., Borhan, B., & Hashimoto, M. (2013). 7- β - and 10- β -Hydroxylated congeners of CAF-603, elucidation of absolute configuration of CAF-603 family, and their SAR studies in the antifungal activity. *Tetrahedron*. **69**, 9469–9474.
- a-03. Honda, T., Fujita, T. & Tonouchi, A. (2013). *Aminivibrio pyruvatiphilus* gen. nov., sp. nov., an anaerobic, amino-acid-degrading bacterium from the soil of a Japanese rice field. *Int J Syst Evol Microbiol*. **63**, 3679–3686.
- b-01. 殿内暁夫：嫌気性真菌. pp69–72, 日本土壌微生物学会編 土壌微生物実験法 第3版, 養賢堂. (2013)
- b-02. 原田幸雄・殿内暁夫・山岸洋貴：白神自然観察園のきのこ(3). 弘前大学白神自然環境研究所. (2013)
- b-03. 佐々木長市・佐々木喜市・佐瀬 隆・殿内暁夫・森貞和仁・松山信彦・菅野均志：白神山地の土壌入門. 弘前大学白神自然環境研究所. (2013)
- d-01. 原田幸雄・福嶋康高・殿内暁夫・田中和明・佐野輝男：オオバナノエンレイソウを中間宿主とするクサヨシ冠さび病菌の一種. 第48回日本植物病理学会東北支部会.
- d-02. 本田拓也・北村浩二・藤田 隆・殿内暁夫：水田土壌からの新規嫌気性細菌の分離と諸性質の解析. 第28回日本微生物生態学会大会.
- d-03. 内村ゆき美・川崎通夫・殿内暁夫：*Mastigamoeba balamuthi* と日本の水田土壌から分離した嫌気性アメーバ AF065-Y 株の特徴比較研究. 第28回日本微生物生態学会大会.

- d-04. 木村紀昭・東 信行・殿内暁夫：十三湖底質に生息する細菌の多様性に関する研究(2). 第28回日本微生物生態学会大会.
- d-05. 堀野 遥・藤田 隆・殿内暁夫：水田土壌から分離した嫌気性セルロース分解細菌に関する研究. 第28回日本微生物生態学会大会.
- d-06. 殿内暁夫：水田土壌に生息する嫌気性真核生物. 嫌気性界の微生物生態研究部会シンポジウム. 第28回日本微生物生態学会大会 微生物生態学研究部会
- d-07. 安村良子・殿内暁夫・橋本 勝：*Trichoderma* sp.の生産するテルペン類とステロイド様物質の構造決定. 日本農芸化学会東北支部第147回大会.
- d-08. 竹川大登・橋本 勝・殿内暁夫・根平達夫：子囊菌 *Chaetomium* sp. の生産する抗菌物質の構造. 日本農芸化学会東北支部第147回大会. (2012. 10. 6, 弘前大学)
- d-09. 斎藤輝明・殿内暁夫・原田幸雄：食用きのこ「ムキタケ」に関する研究. 第57回 日本菌学会大会 (2013. 6. 9, 東京農業大学)
- f-01. 殿内暁夫：日本農芸化学会第53回サイエンスカフェ「微生物の力を味わおう」
- f-02. 殿内暁夫：弘前大学ドリーム講座「微生物の世界」(2013. 7. 3, 三本木高校)

濱田 茂樹

- a-01. Hamada, S., Suzuki, K., Aoki, N., and Suzuki, Y.: Improvements in the qualities of gluten-free bread after using a protease obtained from *Aspergillus oryzae*. *J. Cereal Sci.*, **57** (1), 91–97 (2013).
- a-02. Wakuta, S., Shibata, Y., Yoshizaki, Y., Saburi, W., Hamada, S., Ito, H., Hwang, S.K., Okita, T.W., Matsui, H.: Modulation of allosteric regulation by E38K and G101N mutations in the potato ADP-glucose pyrophosphorylase. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, **77** (9), 1854–1859 (2013).
- d-01. 鈴木啓太郎・濱田茂樹・鈴木保宏・根本 博・高 在観・李 廷熙・呉 正寛：新規育成米選抜のための品質評価法の検討. 日本作物学会第235回講演会 (神奈川)
- c-01. 濱田茂樹「膨らみと食味の向上した玄米粉パン」米麦改良 (全国米麦改良協会) 1月号 9–15, 2013

【生物資源学科】

【食品開発コース】

石川 隆二

- a-01. Ashikawa, I. and R. Ishikawa: A population genetics-based approach reveals candidate gene regions important in the determination of resistance specificity for the *Pik* family of rice blast resistance genes. *J. Gen. Plant Pathol.*, **79**: 178–181, 2013.
- a-02. Wang, YP, C. Bounphanousay, K. Kanyavong, I. Nakamura, Y-I. Sato, T. Sato, H-S. Zhang, L-H. Tang, R. Ishikawa: Population structural analysis of an in-situ conservation site for wild rice in Laos. *Genes Genet. Syst.*, **87**: 311–322, 2012.
- a-03. Higo H, Tahir M, Takashima K, Miura A, Watanabe K, Tagiri A, Ugaki M, Ishikawa R, Eiguchi M, Kurata N, Sasaki T, Richards E, Takano M, Kishimoto N, Kakutani T, Habu Y.: DDM1 (decrease in DNA methylation) genes in rice (*Oryza sativa*). *Mol Genet Genomics.*, **287** (10): 785–92, 2012.
- b-01. 石川隆二：イネの歴史を語る国境を越えて 「イネをめぐるフィールド研究, フィールド科学の入り口 イネの歴史を語る (佐藤洋一郎・赤坂憲雄 編)」, pp.70–120, 玉川大学出版部, 東京, 2013.
- d-01. 外和昌大・寺内良平・石川隆二：野生イネの多様性評価に関する研究 1. WGS情報によるレトロトランスポゾン挿入領域の検出によるオーストラリア野生イネ系統解析への応用 第123回日本育種学会 (東京農大) 2013年03月27日～2013年03月28日.
- d-02. 大塚健太・寺内良平・石川隆二：野生イネの多様性評価に関する研究 2. WGS情報による細胞質ゲノム多型領域の検出とオーストラリア野生イネ系統解析への応用 第123回日本育種学会 (東京農大) 2013年03月27日～2013年03月28日.
- d-03. R. Ishikawa: Application of Phylogenomics and evolution. New perennial wild rice in Australia. The 10th functional genomic Phylogenomics and evolution (Chiang mai, Thailand) 26–29 Nov, 2013.
- d-04. Ishikawa, R., K. Ootsuka, M. Sotowa, K. Ichitani, D. Water, and R. Henry : Australian Wild Rice; a valuable genetic resource. The 62 Australian Cereal Conference. (Gold coast, Queensland, Australia) 27–29 Aug, 2012.
- d-05. 外和昌大・一谷勝之・R. Henry・S. Bryan・石川隆二：野生イネの多様性評価に関する研究 4. オーストラリア野生イネの生活史特性：新奇な多年生戦略と従来型の同所性. 第124回日本育種学会 (鹿児島大学) 2013年10月12日～10月13日.
- d-06. 石川隆二・結城穂奈美・S. Chotechuen・U. Promnart・芦川育夫：野生イネの多様性評価に関する研究 3. 異なる集団構造を有する自生地保全区における遺伝的多様性. 第124回日本育種学会 (鹿児島大学) 2013年10月12日～10月13日.

千田 峰生

- a-01. Uchiyama, T., S. Hiura, I. Ebinuma, M. Senda, T. Mikami, C. Martin and Y. Kishima: A pair of transposons coordinately suppresses gene expression, independent of pathways mediated by siRNA in *Antirrhinum*. *New Phytologist* **197**: 431–440, 2013.
- a-02. Rodriguez, T.O., F.R. Rodas, M.E. Oyoo, M. Senda, R. Takahashi: Inverted repeat of chalcone synthase 3 pseudogene is associated with seed coat discoloration in soybean. *Crop Science* **53**: 518–523, 2013.
- d-01. 海老沼一出・内山貴子・樋浦里志・千田峰生・三上哲夫・貴島祐治：キンギョソウ *nivea* 座における2つのトランスポゾンの挟み撃ち. 平成24年度日本育種学会・日本作物学会 北海道談話会 (北海道大学), 2012.
- d-02. 千田峰生・大久保喜光・松本拓郎・佐野輝男・大西志全：低温種皮着色抵抗性黄ダイズ品種トヨハルカはSMV褐斑症状を緩和する. 日本育種学会第123回講演会 (東京農業大学), 2013.
- d-03. 千田峰生：大豆の種皮着色抑制に関与する内因性RNAサイレンシング. 富山大学理学部生物学科セミナー (富山大学), 2013.
- f-01. 千田峰生：学位取得のための研究の進め方 —3年で学位を取得するために— 岩手連合農学大学院科学コミュニケーション講義 (弘前 星と森のロマンピア), 2013.

戸羽 隆宏

f-01. 戸羽隆宏：食中毒の話. 弘前大学ドリーム講座 青森県立青森南高等学校 (2012)

原田 竹雄

- a-01. Xu, H., R. Iwashiro, T. Li, T. Harada : *GIBBERELLIC ACID INSENSITIVE* transcript transported from stock is translated and attenuates GA response in the scion. *BMC Plant Biology*. 13: 165.DOI: 10.1186/10.1186/1471-2229-13-165. 2013.
- a-02. Kasai, A., T. Sano, T. Harada : Scion on a stock producing siRNAs of potato spindle tuber viroid (PSTVd) attenuates accumulation of the viroid. *PLOS ONE* 8 (2): e57736. doi:10.1371/journal.pone.0057736. 2013.
- a-03. Zhang, X., L. Gong, C. Ma, H-Y. Xu, J-F. Hu, T. Harada, T-Z. Li : Gibberellic acid-insensitive mRNA transport in *Pyrus*. *Plant Molecular Biology Reporter* doi:10.1007/ s11105-011-7, 2012.
- b-01. 葛西厚史・原田竹雄：植物育種技術としてのエピ変異体作出法；シリーズ：NBT⑤ バイオサイエンスとインダストリー 71：462-465. 2013.
- b-02. 葛西厚史・原田竹雄：植物の接ぎ木を利用した接ぎ木相手の形質転換. 植物化学調節 (印刷中)
- d-01. Kasai, A., H. Hojo, T. Harada: Epimutant induction by long-distance transport siRNA. 8th Joint Korea-Japan Plant Biotech Workshop —New Biotechnology-based Plant Breeding Techniques— Hokkaido University. 2013.
- d-03. Hojo, H., A. Kasai, T. Harada: Transcriptional gene silencing of endogenous gene *Virp1* in tomato. *Plant Biology* 2013. (Boston, USA) 2013.
- d-04. Kasai, A., R. Iwashiro, T. Harada : An effective TGS induction in grafting partner by phloem transport of siRNA and mRNA. *Plant Biology* 2013. (Boston, USA) 2013.
- d-05. 原田竹雄：篩管輸送RNAと根系機能活用による新規形質転換体作出法. 園芸学会平成24年度秋季大会シンポジウム (福井県立大学) 2012.
- d-06. 葛西厚史・北條初音・佐野輝男・原田竹雄：トマト *SlVirp1* エピ変異体の獲得とその特性法 日本育種学会 (東京農業大学) 2013.
- d-07. Harada, T.: Epimutant induction of endogenous gene by grafting. 29th IPSR International Symposium and Symposium on Plant Stress Sciences. (岡山大学資源植物科学研究所) 2013.
- d-08. Kasai, A., H. Hojo, T. Kawamata, T. Harada : Generation of Epimutants by Grafting. 第35回日本分子生物学会 (福岡国際会議場) 2012.
- d-01. 川又 奨・葛西厚史・原田竹雄：リンゴにおける根でのTGS発動方法について. 平成24年度果樹バイテク研究会 (弘前市) 2012.
- d-01. 原田竹雄・葛西厚史：リンゴにおけるエピアレル変異体の作出技術. 平成24年度果樹バイテク研究会. 基調講演 (弘前市) 2012.
- f-01. 原田竹雄：接ぎ木による新たな品種改良法. アグリビジネス創出フェア. (東京ビッグサイト) 2012.
- f-02. 原田竹雄：篩管長距離輸送RNAによる品種改良新技術. 岩手県生物工学研究所 第186回公開セミナー. 2012.
- f-03. Harada, T.: Seminar at San Paulo State University (Brazil). Epimutant induction by long distance RNA transport in plants. 2013.
- f-04. 原田竹雄：岩手大学連合大学院「科学コミュニケーション」—バイテクがリンゴを改良する— (弘前市星と森のロマンピア) 2013.
- f-05. 原田竹雄：篩管輸送RNAによる新しい品種改良法. 東北植物学会第2回大会公開シンポジウム (弘前大学) 2012.
- f-06. 原田竹雄：ここまで進んだリンゴバイオテクノロジー. 弘前大学農学生命科学部附属共生教育研究センター公開講座 (弘前市共催) (弘前中央公民館相馬館) 2012.
- f-07. 原田竹雄：接ぎ木を用いたRNAiによる品種改良. 徳島大学農工商連携セミナー (徳島大学) 2013.
- f-08. 原田竹雄：環境と遺伝子. 弘前大学ドリーム講座 (青森北高校) 2012.

柏木 明子

- d-01. 菅原 竜・對馬(佐野)文恵・熊谷知史・四方哲也・柏木明子：実験室内進化によって得られた高温適応バクテリア *Qβ* の変異解析. 第35回日本分子生物学会年会, 福岡国際会議場・マリンメッセ福岡 (福岡県), 2012.
- d-02. 柏木明子・菅原 竜・對馬(佐野)文恵・熊谷知史・四方哲也：RNA フェージ *Qβ* の高温適応実験進化におけるアミノ酸配列の変化を伴わない塩基置換の適応への貢献. 日本進化学会 第15回筑波大会, 筑波大学 (茨城県),

2013.

- d-03. 柏木明子・菅原 竜・熊谷知史・對馬(佐野)文恵・熊坂直也・四方哲也：実験進化による高温適応RNAバクテリアオフページQ β の獲得とそのゲノム解析，第65回日本生物工学会大会，広島国際会議場（広島県），2013.
- e-01. 柏木明子：科学研究費補助金（基盤C）報告書，2013.
- e-02. 柏木明子：戦略的創造研究推進事業四方動的微小反応場プロジェクト（科学技術振興機構），平成24年度 研究成果報告書，2013.

前多 隼人

- a-01. Maeda H, Yamazaki M, Katagata Y.: Kuromoji (*Lindera umbellata*) Essential Oil Inhibits LPS-Induced Inflammation in RAW 264.7 Cells. *Bioscience biotechnology and biochemistry*, 77 (3): 482-486, 2013.
- a-02. Maeda H, Saito S, Nakamura N, Maoka T.: Paprika Pigments Attenuate Obesity-Induced Inflammation in 3T3-L1 Adipocytes. *ISRN Inflammation*, 2013: 763758, 2013.
- a-03. Maeda H, Hosomi R, Chiba U, Fukunaga K.: Chemical Composition of Salmon Ovary Outer Membrane and Its Protein Increases Fecal Mucins Content in C57BL/6J and Type 2 Diabetic/Obese KK-*A^y* Mice. *Foods*, 2 (3):415-429, 2013.
- b-01. Miyashita K, Maeda H, Nishikawa S, Tsukui T, TWidjaja-Adhi M A, Hosokawa H.: Fucoxanthin as potential nutraceutical for obesity therapy : A Review. *Carotenoid Science*, 17: 1-7, 2012.
- b-02. Maeda H, Abe M, Hosokawa M, Miyashita K, Katagata Y.: Neoxanthin in Komatsuna improves lipid metabolism in adipocyte cells. *Carotenoid Science*, 17: 51-52, 2012.
- b-03. 前多隼人：海藻由来フコキサンチンの抗肥満作用。オレオサイエンス，日本油化学会，12巻 10号503-508. 2012.
- b-04. 前多隼人：食品と疾病—フコキサンチン 6.フコキサンチンの抗肥満作用。Functional Food, フジメディカル出版，6巻 4号 249-253, 2013.
- b-05. 前多隼人：リンゴと健康の話①. りんご生産技術研究会 会報，りんご生産技術研究会，4号 20-23. 2013.
- b-06. 前多隼人：リンゴと健康の話②. りんご生産技術研究会 会報，りんご生産技術研究会，5号 19-22. 2013.
- b-07. 前多隼人・阿部美菜子・伊藤聖子・片方陽太郎・加藤陽治：東京都江戸川区産小松菜の色素成分の生理機能と硝酸塩の安全性の検討。New food industry, 食品資材研究会，55巻 1号 33-40. 2013.
- c-01. 前多隼人：基礎食品分析実験 第8章色素の分析。文教出版，175-192, 2013.
- d-01. Maeda H, Honma K, Hosokawa M, Miyashita K.: Anti-obesity effects of fish oil and fucoxanthin on diet-induced obesity model. World Congress on Oleo Science 2012 & 29th ISF Congress, (アルカス佐世保) 2012.
- d-02. 山崎真央・片方陽太郎・前多隼人：クロモジ精油の抗炎症作用。日本農芸化学会東北支部第147回大会，(弘前大学) 2012.
- d-03. 菅野翔伍・本間公博・前多隼人：魚油とフコキサンチンの併用による食事性肥満マウスに対する抗肥満作用。日本農芸化学会東北支部第147回大会，(弘前大学) 2012.
- d-04. 中村 望・前多隼人：パプリカ色素成分の脂質代謝調節作用および肥満における抗炎症作用。日本農芸化学会東北支部第147回大会，(弘前大学) 2012.
- d-05. 中村 望・前多隼人：パプリカ色素，およびパプリカに含まれるカロテノイドの肥満による疾患の予防・改善作用。日本油化学会 フレッシュマンサミット TOKYO 2012, (東京海洋大学) 2012.
- d-06. 山崎真央・片方陽太郎・前多隼人：クロモジ精油の抗炎症作用。日本油化学会 フレッシュマンサミット TOKYO 2012, (東京海洋大学) 2012.
- d-07. Maeda H, Hosokawa M, Miyashita K.: Anti-obesity effects of fucoxanthin in diet-induced obese mice. International Conference and Exhibition on Nutraceuticals and Functional Foods 2012, (Kona beach hotel Kailua-Kona, Hawaii USA) 2012.
- d-08. 堂黒翔太・山崎真央・片方陽太郎・前多隼人：クロモジ精油の抗炎症作用。日本農芸化学会2013年度大会，(東北大学) 2013.
- d-09. 中村 望・前多隼人：パプリカ色素，およびパプリカに含まれるカロテノイドの肥満による疾患の予防・改善作用。日本農芸化学会2013年度大会，(東北大学) 2013.
- d-10. 菅野翔伍・本間公博・前多隼人：魚油とフコキサンチンの併用による食事性肥満マウスに対する抗肥満作用。日本農芸化学会2013年度大会，(東北大学) 2013.
- d-11. 前多隼人・山崎真央：クロモジ (*Lindera umbellata*) 精油による抗炎症作用。日本栄養・食糧学会2013年度大会，(名古屋大学) 2013.

- d-12. 細見亮太・前多隼人・千葉詩子・福永健治：魚肉タンパク給餌によるⅡ型糖尿病/肥満KK-A^yマウスの脂質代謝に及ぼす影響. 日本栄養・食糧学会2013年度大会, (名古屋大学) 2013.
- d-13. 前多隼人・鴨下加奈子・山谷梨恵・工藤重光・古川博志・柏崎進一：黒ごぼうによるアルコール性脂肪肝及び糖吸収抑制作用. 日本食品科学工学会2013年度大会, (実践女子大学) 2013.
- d-14. 菅野翔伍・庭野吉己・前多隼人：フコキサンチン含有脂質によるインスリン抵抗性改善作用. 日本油化学会2013年度大会, (東北大学) 2013.
- d-15. イスラム モハンマド ナズルル・前多隼人・川崎通夫：水耕液中のカルシウム濃度がサトイモの葉身・葉柄中のシュウ酸カルシウム結晶と水溶性シュウ酸に及ぼす影響. 日本作物学会第236回講演会, (鹿児島大学) 2013.
- d-16. 藤田知道・向後智陽・佐藤早希・前多隼人・荒川 修・松本和浩：除袋時期の差異が果肉の赤いリンゴ‘紅の夢’および‘御所川原’の着色に及ぼす影響. 日本園芸学会H25年度秋季大会, (岩手大学) 2013.
- d-17. 松本和浩・黒木克翁・前多隼人・藤田知道・佐藤早希・上平好弘・工藤重光：カットリンゴの試食による新規赤い果肉リンゴに対する消費者意識のアンケート調査. 日本園芸学会H25年度秋季大会, 岩手大学 2013.
- e-01. 前多隼人：えどがわ農業産学公プロジェクト総括報告書 (平成24年度), 2013.
- e-02. 前多隼人：平成24年度ナマコの食ブランド化推進事業 ナマコの機能性研究業務報告書, 2013.
- e-03. 前多隼人：大間漁業協同組合・弘前大学共同研究「地域振興のための海洋資源活用に関する研究」報告書, 2013.
- e-04. 前多隼人：JST復興促進プログラム(マッチング促進)可能性試験「黒ごぼうの機能性を利用した新製品の開発」H24年度進捗状況報告書, 2013.
- f-01. 前多隼人：ナマコフォーラム2012講演, (青森市文化観光交流施設ねぶたの家 ワラッセ) 2012.
- f-02. 前多隼人：ものづくり産業パートナーフォーラム in ひろさき TOHOKUものづくりフォーラム「新しい加工食品「黒ごぼう」とその健康機能性」展示発表, (弘前市) 2012.
- f-03. 前多隼人：全国なまこサミット2012 講演・パネルディスカッション, (石川県七尾市) 2013.
- f-04. 前多隼人：第2回油化学セミナー「サビにくい体にする抗酸化食品の健康調節機能」企画運営, 日本油化学会関東支部会主催, (弘前市) 2013.
- f-05. 前多隼人：日本油化学会2013年度大会 実行委員, 2013.

【生産環境コース】

青山 正和

- a-01. Matsuyama, N., S. Karim, C. Sasaki, M. Aoyama, F. Seito, F., H. Fujisawa and M. Saigusa: Chemical and physical properties of Andosols in Aomori Prefecture described in a Soil Survey Report on Reclaimed Land. *J. Agron.*, **11**: 73-78, 2012.
- a-02. 青山正和・木村智志・野呂拓未：有機栽培期間の異なる野菜畑土壌の理化学性. *土肥誌*, **84**: 21-29, 2013.
- a-03. 青山正和・木村智志・野呂拓未：有機栽培期間の異なる野菜畑土壌の粗粒有機物, 水溶性有機物と微生物バイオマス. *土肥誌*, **84**: 30-37, 2013.
- a-04. Aoyama, M. and R. Tanaka: Effects of heavy metal pollution of apple orchard surface soils associated with past use of metal-based pesticides on soil microbial biomass and microbial communities. *J. Environ. Protect.*, **4**: 27-36, 2013.
- a-05. Karim, S., Y. Okuyama and M. Aoyama: Separation and characterization of the constituents of compost and soil humic acids by two-dimensional electrophoresis. *Soil Sci. Plant Nutr.*, **59**: 130-141, 2013.
- a-06. Sonoki, T., T. Furukawa, K. Jindo, K. Suto, M. Aoyama and M. A. Sánchez-Monedero: Influence of biochar addition on methane metabolism during thermophilic phase of composting. *J. Basic Microbiol.*, **53**: 617-621, 2013.
- b-01. Karim, S. and M. Aoyama: Separation of humic acid constituents by polyacrylamide gel electrophoresis in the presence of concentrated urea using a preparative electrophoresis system. In *Functions of Natural Organic Matter in Changing Environment, Part I*, Eds. J. Xu, J. Wu and Y. He, p. 135-140, Springer, Netherlands, 2013.
- d-01. Saiful Karim・青山正和：高濃度尿素存在下での腐植酸構成成分の分離. 日本腐植物質学会第28回講演会 (首都大学東京), 2012.
- d-02. 青山正和：土壌中での有機物動態と土壌団粒の形成・崩壊 (日本土壌肥料学会シンポジウム「土壌団粒構造と土壌プロセス」). 日本土壌肥料学会2013年度名古屋大会 (名古屋大学), 2013.
- d-03. 青山正和：高濃度尿素処理による土壌腐植酸の分画. 日本土壌肥料学会2013年度名古屋大会 (名古屋大学),

2013.

- e-01. 伊藤大雄・青山正和・藤田 隆：土壌管理を基軸とするリング無化学農薬栽培の実証的研究. 青森の自然・農業と地域振興—農学生命科学部50周年事業報告書, 47–53頁, 弘前大学農学生命科学部, 2012.

佐野 輝男

- a-01. Jiang D, Sano T, Tsuji M, Araki H, Sagawa K, Adkar Purushothama CR, Zhang Z, Guo R, Xie R, Wu Z, Wang H, Li S.: Comprehensive diversity analysis of viroids infecting grapevine in China and Japan. *Virus Res.* 169: 237–245. 2012.
- a-02. Adkar-Purushothama CR, Nagaraja H, Sreenivasa MY, Sano T: First report of *Coleus blumei* viroid infecting *Coleus* in India, *Plant Disease*, 97 (1): 149. 2012.
- a-03. Jianga D, Hou W, Sano T, Kang N, Qin L, Wu Z, Li S, Lianhui Xie L.: Rapid detection and identification of viroids in the genus *Coleviroid* using a universal probe. *J Virol Method* 187: 321–326. 2013.
- a-04. Nekoduka S, Tanaka K, Sano T.: Overwintering of brown leaf spot fungus, *Mycochaetophora gentianae*, in infected gentian leaves as the primary inoculum source. *J Gen Pl Pathol.* 79 (3): 175–177. 2013.
- a-05. Kasai A, Sano T, Harada T: Scion on a stock producing siRNAs of Potato spindle tuber viroid (PSTVd) attenuates accumulation of the viroid. *PLoS ONE* 8 (2): e57736. doi: 10.1371/journal.pone.0057736. 2013.
- a-06. Tsuda S, Sano T: Threats to Japanese agriculture from newly emerged plant viruses and viroids. *J Geu Pl Pathol.* 80: 2–14. DOI 10.1007/s10327-013-0475-1. 2014.
- a-07. Kaponi, MS, Sano T, Kyriakopoulou PE: Natural infection of sweet cherry trees with Apple scar skin viroid. *J Pl Pathol.* 95 (2): 429–433. 2013.
- d-01. 高田展之・Adkar-Purushothama Charith Raj・葛西 厚・赫 英紅・宍戸 愛・原田竹雄・佐野輝男：ウイロイド特異的 small RNA のウイロイド複製抑制効果の解析. 平成25年度日本植物病理学会大会（岐阜市, 岐阜大学）2013年3月27 – 29日.
- d-02. 対馬太郎・松本真衣・片山菜津恵・佐野輝男：コリウスウイロイド1と6の分子構造と感染性の比較解析. 平成25年度日本植物病理学会大会（岐阜市, 岐阜大学）2013年3月27 – 29日.
- d-03. 浅利正義・赫 英紅・田中和明・佐野輝男：リング葉巻萎縮病樹に形成された *Kretzschmaria* 属菌および *Nemania* 属菌完全世代の形態. 平成25年度日本植物病理学会大会（岐阜市, 岐阜大学）2013年3月27 – 29日.
- d-04. Tsushima T and Sano T: Molecular and biological characterization of Potato spindle tuber viroid and Dahlia latent viroid in dahlia cultivated in Japan. *International Workshop on Viroids and Satellite RNAs (IWVdS)*, Beijing (China), April 23–25. 2013.
- d-05. Sano T, Zhang S-X, Taneda A, Matsuda T, Murosaki F, Li S-F, Owens RA: Characterization of Hop stunt viroid adaptation mutations emerged during persistent infection in hops. *International Workshop on Viroids and Satellite RNAs (IWVdS)*, Beijing (China), April 23–25. 2013.

比留間 潔

- a-01. Yokoyama, T., Hiruma, K., and Tomita, S. (2012). BHR4 nuclear receptor coordinates the timing of pupal ecdysis through ecdysteroid biosynthesis in *Bombyx mori*. *J. Insect Biotech. Sericol.* **81**, 45–53.
- a-02. Hiruma, K., and Kaneko, Y. (2013). Hormonal regulation of insect metamorphosis with special reference to juvenile hormone biosynthesis. *Curr. Top. Dev. Biol.* **103**, 73–100.
- a-03. Suzuki, Y., Koyama, T., Hiruma, K., Riddiford, L.M., and Truman, J.W. (2013). A molt timer is involved in the metamorphic molt in *Manduca sexta* larvae. *PNAS* **110**, 12518–12525.
- a-04. Kayukawa, T., Murata, M., Kobayashi, I., Muramatsu, D., Okada, C., Uchino, K., Sezutsu, H., Kiuchi, M., Tamura, T., Hiruma, K., Ishikawa, Y., and Shinoda, T. (2013). Hormonal regulation and molecular function of Krüppel homolog 1, a repressor of metamorphosis, in the silkworm *Bombyx mori*. *Dev. Biol.* In press.
- d-01. Hiruma, K., Kaneko, Y., and Riddiford, L.M. (2013). Pupal commitment of a single celled Verson's gland occurs gradually. *International Insect Hormone (19th Ecdysone) Workshop 2013*, July 22–26, University of Minnesota, Minnesota, USA.
- d-02. Truman, J.W., Suzuki, Y., Koyama, T., Hiruma, K., and Riddiford, L.M. (2013). The role of molt timers in determining instar length in *Manduca sexta*. *International Insect Hormone (19th Ecdysone) Workshop 2013*, July 22–26, University of Minnesota, Minnesota, USA.

- d-03. 比留間潔・秋元真理・杉目康広・金児 雄 (2013). インスリンによる *crochet* 産生細胞の細胞死誘導. 第57回日本応用動物昆虫学会. 2013年3月27-29日. 日本大学.
- d-04. 盛 雄治・金児 雄・比留間潔 (2013). カイコ *Verson's gland* の体節特異的に起こる細胞死に対する JH による制御. 第57回日本応用動物昆虫学会. 2013年3月27-29日. 日本大学.
- d-05. 横山拓彦・比留間潔・富田秀一郎 (2013). カイコのエクダイソン応答性転写因子 BHR4 の蛹化時期における生体内での役割. 第57回日本応用動物昆虫学会. 2013年3月27-29日. 日本大学.
- d-06. 金児 雄・比留間潔 (2013). インスリンにより誘導される *Verson's gland* の蛹コミットメント. 第57回日本応用動物昆虫学会. 2013年3月27-29日. 日本大学.
- d-07. 粥川琢己・小林 功・内野恵郎・瀬筒秀樹・木内 信・比留間潔・石川幸男・篠田徹郎 (2013). 変態制御作用を有する *Krüppel homolog 1* 遺伝子の機能解析. 第57回日本応用動物昆虫学会. 2013年3月27-29日. 日本大学.
- d-08. 比留間潔・秋元真理・杉目康広・金児 雄 (2013). 栄養により不活性化されるインスリン伝達経路. 日本蚕糸学会第83回大会. 2013年3月18-19日. 農林水産技術会議事務局筑波事務所.
- d-09. 盛 雄治・金児 雄・比留間潔 (2013). JH によって制御されるカイコ *Verson's gland* の体節特異的な細胞死. 日本蚕糸学会第83回大会. 2013年3月18-19日. 農林水産技術会議事務局筑波事務所.
- d-10. 金児 雄, 比留間潔 (2013). 単一細胞の蛹コミットメント; *Verson's gland* を用いた解析. 日本蚕糸学会第83回大会. 2013年3月18-19日. 農林水産技術会議事務局筑波事務所.

赤田 辰治

- a-01. Torimaru, T., S. Akada, K. Ishida, S. Matsuda, and M. Narita (2013) Spatial associations among major tree species in a cool-temperate forest community under heterogeneous topography and canopy conditions. *Popul. Ecol.* 55, 261-275.
- d-01. 櫛引はるか・穴井豊昭・赤田辰治: ダイズにおける貧窒素栄養応答性 R2R3-MYB の機能解析. 東北植物学会第2回青森大会 (弘前大学). 2012. 12. 15.
- d-02. 高橋 瞬・上西園崇文・赤田辰治: ダイズにおける2つの *WUSCHEL* 遺伝子の単離・機能解析. 東北植物学会第2回青森大会 (弘前大学). 2012. 12. 15.
- d-03. 軽部栄樹・三津谷慎治・諏訪邑子・赤田辰治: ブナ実生の生長におよぼす環境ストレスの影響と遺伝子多型の解析. 東北植物学会第2回青森大会 (弘前大学). 2012. 12. 15.
- d-04. 井頭千明・大宮泰徳・鳥丸 猛・赤田辰治: ブナの開花調節に関わる生態学的要因の探索ならびに花芽形成遺伝子 *FT* の構造と機能の解析. 東北植物学会第2回青森大会 (弘前大学). 2012. 12. 15.
- d-05. 小森美穂・瀬川 香・斎藤靖史・赤田辰治: クローバーのよつ葉発生機構に関する分子遺伝学的解析. 東北植物学会第2回青森大会 (弘前大学). 2012. 12. 15.
- d-06. 赤田辰治・上祐 瞳・諏訪邑子・松田修一: ブナ乾燥応答性遺伝子 *FcMYB1603* の機能解析とその塩基多型. 日本森林学会第124回大会 (岩手大学). 2013. 3. 26.
- d-07. 井頭千明・大宮泰徳・赤田辰治: ブナにおける FT 遺伝子の発現と花芽形成. 日本森林学会第124回大会 (岩手大学). 2013. 3. 26.
- d-08. 櫛引はるか・穴井豊昭・赤田辰治: マメ科植物の根で貧窒素栄養に応答する *MYB101* の機能. 日本育種学会第123回講演会 (東京農業大学). 2013. 3. 28.

田中 和明

- a-1. Nekoduka S, Tanaka K, Sano T (2013) Overwintering of brown leaf spot fungus, *Mycochaetophora gentianae*, in infected gentian leaves as the primary inoculum source. *J Gen Plant Pathol* 79: 175-177.
- a-2. Hosoya T, Saito Y, Harada Y, Tanaka K, Zhao YJ, Kakishima M (2013) *Stamnaria americana*, new to Japan and occurring on *Equisetum stems*. *Mycosystema* 32: 448-456.
- a-3. Takekawa H, Tanaka K, Fukushi E, Matsuo K, Nehira T, Hashimoto M (2013) Roussoellols A and B, Tetracyclic Fusicocanes from Roussoella hysteroideis. *Journal of Natural Products* 76: 1047-1051.
- a-4. Raja HA, Oberlies NH, Figueroa M, Tanaka K, Hirayama K, Hashimoto A, Miller AN, Zelski SE, Shearer CA (2013) Freshwater Ascomycetes: *Minutisphaera* (Dothideomycetes) revisited, including one new species from Japan. *Mycologia* 105: 959-976.
- d-1. 橋本 陽・佐藤玄樹・松田考広・平山和幸・田中和明 (2013) 日本産 *Dinemasporium* 属菌の種分類について. 日本菌学会第57回大会, 東京, 東京農業大学, 2013年6月8-9日.

- d-2. 田中和明・平山和幸・橋本 陽・白水 貴 (2013) マッサリナ亜目 (クロイボタケ綱・プレオスポラ目) の分類学的再検討. 日本菌学会第57回大会 (東京・東京農業大学), 2013年6月8~9日.
- d-3. 佐藤豊三・小野 剛・田中和明・服部 力 (2013) 新たに明らかになった小笠原諸島の菌類とその宿主. 日本菌学会第57回大会 (東京・東京農業大学), 2013年6月8~9日.
- d-4. 関口麻央・金子 繁・神田 多・佐藤豊三・田中和明・渡辺京子 (2013) *Synnemapestaloides* 属菌の形態学および分子系統学的解析. 日本菌学会第57回大会 (東京・東京農業大学), 2013年6月8~9日.

松山 信彦

- a-01. Matsuyama, N., Karim, S., Sasaki, C., Aoyama, M., Seito, F., Fujisawa, H. and Saigusa, M. : Chemical and Physical Properties of Andosols in Aomori Prefecture Described in a Soil Survey Report on Reclaimed Land. *J. of Agronomy*, 11 (3): 73-78, 2012.
- a-02. Sasaki, C., Sasaki, K., Matsuyama, N., Tonouchi, A. and Sase, T.: Characteristics of brown forest soil in Shirakami Natural Science Park in southwest Aomori Prefecture, Japan. *SHIRAKAMI-SANCHI*, Vol.2, p.9-15, 2013.
- b-01. 松山信彦: 白神山地の土壌入門, pp.10~11, pp.18~21, 2013.
- d-01. 松山信彦・青山正和・佐々木長市・藤澤春樹・三枝正彦: 開拓地土壌概要から見た東北地方に分布する黒ボク土の特徴, 2013年日本土壌肥料学会講演会, 名古屋, 2013.
- d-02. 松山信彦・佐藤博友・松村真悟・浅利佳紀・佐々木長市: 分けつを除去したマコモ (*Zizania latifolia* Turcz.) に対するケイ酸の効果, 日本作物学会東北支部講演会, 郡山, 2013.
- d-03. 水野貴文・森 静香・松山信彦・藤井弘志: 水稻の植え付け深および栽植密度が根量と窒素およびケイ酸吸収量に及ぼす影響, 2013年日本土壌肥料学会講演会, 名古屋, 2013.
- d-04. 佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦・森谷慈宙: 客土をもつカドミウム汚染水田の浸透型が稲体のカドミウム濃度に及ぼす影響(2), 平成25年度農業農村工学会講演会, 2013.
- f-01. 白神山地の土壌入門, 編集, 2013.

金児 雄

- a-01. Hiruma, H., Kaneko, Y.: Hormonal regulation of insect metamorphosis with special reference to juvenile hormone biosynthesis. *Curr. Top. Dev. Biol.*, **103**, 73-100. 2013.
- d-01. 金児 雄・比留間潔: 単一細胞の蛹コミットメント: Verson's glandを用いた解析. 日本蚕糸学会第83回大会 (つくば市・農林水産技術会議事務局筑波事務所), 2013.
- d-02. 盛 雄治・金児 雄・比留間潔: JHによって制御されるカイコ Verson's gland の体節特異的な細胞死. 日本蚕糸学会第83回大会 (つくば市・農林水産技術会議事務局筑波事務所), 2013.
- d-03. 比留間潔・秋元真理・杉目康広・金児 雄: 栄養により不活化されるインスリン伝達経路. 日本蚕糸学会第83回大会 (つくば市・農林水産技術会議事務局筑波事務所), 2013.
- d-04. 金児 雄・比留間潔: インスリンにより誘導される Verson's gland の蛹コミットメント. 日本応用動物昆虫学会第57回大会 (藤沢市・日本大学生物資源科学部湘南キャンパス), 2013.
- d-05. 盛 雄治・金児 雄・比留間潔: カイコ Verson's gland の体節特異的に起こる細胞死に対する JH による制御. 日本応用動物昆虫学会第57回大会 (藤沢市・日本大学生物資源科学部湘南キャンパス), 2013.
- d-06. 比留間潔・秋元真理・杉目康広・金児 雄: インスリンによる *crochet* 産生細胞の細胞死誘導. 日本応用動物昆虫学会第57回大会 (藤沢市・日本大学生物資源科学部湘南キャンパス), 2013.

【園芸農学科】

【園芸農学コース】

荒川 修

- a-01. Ghorbani, E., D. Bakhshi, M. Ghasemnezhad, O. Arakawa, H. Hajnajari, A. Papachatzis: Evaluation of Phenolic compounds and Antioxidant Activity of Some Native and Imported Apple Cultivars in IRAN. *Acta Hort.* 981: 705-712, 2013.
- d-01. 岸本結香・田中紀充・和田雅人・守谷(田中)友紀・村松 昇・小森貞男・荒川 修：リンゴの種子形成が果実肥大および果実品質に及ぼす影響. 園芸学会（東京農工大）. 園学研., 12別1: 264, 2013.
- d-02. 田中紀充・佐藤 充・岸本結香・松本省吾・守谷(田中)友紀・小森貞男・荒川 修：リンゴの種子形成が果実細胞に及ぼす影響. 園芸学会（東京農工大）. 園学研., 12別1: 266, 2013.
- d-03. 荒川 修・平岡麻由美・吉田 仁・張 樹槐・田中紀充：3Dカメラによるリンゴ果実の肥大特性の計測. 園芸学会（岩手大学）. 園学研., 12別2: 283, 2013.
- d-04. 藤田知道・向後智陽・佐藤早希・前多隼人・荒川 修・松本和浩：除袋時期の差異が果肉の赤いリンゴ‘紅の夢’および‘御所川原’の着色に及ぼす影響. 園芸学会（岩手大学）. 園学研., 12別2: 286, 2013.

鈴木 裕之

- a-01. Kabashima, K., D. Yoshinaga, J. Fang, M. Matsuzaki and H. Suzuki: Cell cycle-dependent dynamics of cytoskeleton involving mitochondrial redistribution in hamster embryos. *Reproduction in Domestic Animals*, 48 (2): 267-271, 2013.
- d-01. 秋元慶彦・小澤那奈・檜野 栞・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：めん羊妊娠後期の低タンパク給与が産子の増体、腹腔内脂肪量及び糖代謝調節能に及ぼす影響. 日本畜産学会第116回大会（広島市），2013.
- d-02. 松崎正敏・房 家琛・鈴木裕之：リンゴジュース粕混合発酵飼料の多給が黒毛和種去勢牛の肥育成績に及ぼす影響. 第63回東北畜産学会大会（山形市），2013.
- d-03. Islam, S., 房 家琛, 鈴木裕之, 松崎正敏：Apple pomace silage ethanol intake and its effect on blood metabolites in sheep. 日本畜産学会第117回大会（新潟大学），2013.

張 樹槐

- a-01. 片平光彦・張 樹槐・田村 晃・大泉隆弘・夏賀元康：フォトセンサと画像処理技術を活用したエダマメ用高精度選別機械の開発. *New Food Industry* 54 (7): 21-37, 2012.
- a-02. Luo, X., T. Takahashi and S. Zhang: Wavelength Selection in Visible and Near Infrared Spectra for Detection of Bruises on Apples, *Adv. Sci. Lett.* 19: 2654-2657, 2013.
- a-03. 野上規朗・高橋照夫・張 樹槐：ステレオ視とKINECTセンサによる栽培果菜類の三次元距離計測の事例. 農業機械学会東北支部報, 59: 23-26, 2012.
- d-01. 張 樹槐・成瀬哲郎・叶 旭君・松本和浩：赤肉リンゴ「紅の夢」の果肉着色度の非破壊予測に関する研究. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨：91, 2013.
- d-02. 佐藤大和・叶 旭君・前田智雄・松崎正敏・張 樹槐：分光反射情報によるアスパラガス内部品質の非破壊的予測に関する研究. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨：238, 2013.
- d-03. 張 樹槐・叶 旭君：日陰処理によるサクラの開花遅延に関する実証研究 —2010～2012年の3ヶ年の実験結果について—. 平成25年度農業機械学会東北支部大会研究発表会要旨集：13-14, 2013.
- d-04. 孔 慶蓮・賀澤智教・荒川 修・張 樹槐・田中紀充：果実表面色の機械測定による赤ナシ系ニホンナシの成熟度判定. 園学研., 12別1: 272, 2013.
- d-05. 張 樹槐：リンゴなど農産物内部品質の非破壊的予測について. 日本計算機統計学会第27回大会（招待講演, 弘前大学），2013.

松崎 正敏

- a-01. Kabashima, K., D. Yoshinaga, J. Fang, M. Matsuzaki and H. Suzuki: Cell cycle-dependent dynamics of cytoskeleton involving mitochondrial redistribution in hamster embryos. *Reproduction in Domestic Animals*, 48 (2): 267-271, 2013.

- a-02. 泉谷眞実・房 家琛・石塚哉史・松崎正敏：中国における食品製造副産物の利活用システムに関する事例分析—りんごジュース製造副産物のリサイクル・システムの日中比較研究—. 農村経済研究, 31(1) : 102-107, 2013.
- a-03. 常石英作・松崎正敏・柴 伸弥・田中正仁・神谷裕子・神谷 充・林 義朗・山田明央：月齢の異なる牛のロース芯12MT割合のGCMS-SIM法による測定. 肉用牛研究会報, 95 : 19-24, 2013.
- d-01. 秋元慶彦・小澤那奈・檜野 栞・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：めん羊妊娠後期の低タンパク給与が産子の増体, 腹腔内脂肪量及び糖代謝調節能に及ぼす影響. 日本畜産学会第116回大会 (広島市), 2013.
- d-02. 松崎正敏・房 家琛・鈴木裕之：リンゴジュース粕混合発酵飼料の多給が黒毛和種去勢牛の肥育成績に及ぼす影響. 第63回東北畜産学会大会 (山形市), 2013.
- d-03. Islam, S.・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：Apple pomace silage ethanol intake and its effect on blood metabolites in sheep. 日本畜産学会第117回大会 (新潟大学), 2013.
- d-04. 佐藤大和・叶 旭君・前田智雄・松崎正敏・張 樹槐：分光反射情報によるアスパラガス内部品質の非破壊的予測に関する研究. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨, 238, 2013.
- e-01. 松崎正敏・房 家琛・齋藤知明・柴 伸弥：リンゴ粕を活用した発酵飼料給与による肉牛肥育マニュアル, 2013.
- f-01. 松崎正敏：文献情報「飼い喰い 三匹の豚とわたし」. 畜産技術, 689: 58, 2012.

川崎 通夫

- a-01. 川崎通夫・イスラム モハンマド ナズルル：青森県において栽培されている「毛豆」の形質的特徴に関する研究. 日本作物学会東北支部会報, 55 : 51-52, 2012.
- d-01. 川崎通夫・兼平沙季：ナガイモにおける塊茎の重力感受と形態形成に対する塊茎頂端部の沈降性アミロプラストの関与. 日本作物学会第235回講演会 (明治大学), (兼平沙季：第235回講演会優秀発表賞受賞), 2012.
- d-02. Islam, M.N., H. Maeda, M. Kawasaki : Effects of different concentrations of calcium in hydroponic treatments on the calcium oxalate crystal and soluble oxalate in the leaf blade and petiole of eddo. The 236th meeting of Japanese society of crop science (Kagoshima University), 2013.
- d-03. 田中康史・川崎通夫・大河 浩：プラスチック局在性輸送体遺伝子 *cemA2* の発現・機能解析. 第2回東北植物学会 (弘前大学), 2012.
- d-04. 川崎通夫・兼平沙季：電子顕微鏡を用いたナガイモとヤマノイモの塊茎内アミロプラストの構造と機能の解析. 日本顕微鏡学会第69回学術講演会 (大阪市), 2013.
- e-01. 川崎通夫：日本作物学会第234回講演会 エクスカーション「仙台湾岸震災農地の復興状況視察」に参加して. 日本作物学会紀事, 82: 83-85, 2013.
- f-01. 川崎通夫：横浜町の砂丘に自生する海浜植物について. よこはまホテル村 (横浜町), 2013.
- f-02. 川崎通夫：横浜町に生息するハマボウフウのネーミング選考. よこはまホテル村 (横浜町), 2013.
- f-03. 川崎通夫：横浜町の砂浜保全のためのハマボウフウ苗の移植会指導. よこはまホテル村 (横浜町), 2013.
- f-04. 川崎通夫：「最強毛豆決定戦」における優良毛豆の審査・選考. 青森毛豆研究会 (弘前市), 2013.
- f-05. 川崎通夫：毎日新聞. 毛豆に関する取材協力・記事掲載 (9月29日付), 2013.

本多 和茂

- a-01. Maeda, T., T. Jishi, A. Komura, H. Hasegawa, K. Narita, K. Honda, T. Yamaguchi: Methyl Jasmonate treatment enhanced protodioscin biosynthesis in white asparagus (*Asparagus officinalis* L.) spears. J. Japan Soc. Hort. Sci., 81 (4): 337-342. 2012.
- c-01. Hase, Y., S. Nozawa, T. Okada, I. Asami, T. Nagatani, Y. Matsuo, A. Kanazawa, K. Honda, I. Narumi: Development of ion beam breeding technology in plants and creation of useful plant resources. JAEA-Review, 95: 46, 2012.
- d-01. 豊田弥生・本多和茂・前田智雄・岡部有紀・山田いづみ・佐藤 嶺・加藤芳文・近藤哲也・石川幸男・山岸洋貴・大橋秀規：北海道および東北のカタクリ地域個体群における種子繁殖実態の解明. 東北植物学会第2回大会 (弘前大学), 2012.
- d-02. 前田智雄・渡邊明優美・奥 聡史・本多和茂・小山内祥代・山崎 篤：タマネギりん茎に含まれるフルクトオリゴ糖のHPLC/ELSD法による解析. 園芸学会. 園学研., 12別1: 378, 2013.
- d-03. 山岸洋貴・藤原久司・本多和茂：エゾエンゴサクにおける主に花器形態に注目した集団比較. 第60回日本生態学会大会 (静岡), 2013.
- d-04. 前田智雄・渡邊明優美・奥 聡史・本多和茂・小山内祥代・山崎 篤：青森県弘前市にて2月まき栽培を行った

タマネギにおける諸形質の品種間差異. 園芸学会. 園学研., 12別2: 419, 2013.

- d-05. Wambrauw, D., T. Kashiwatani, A. Komura, H. Hasegawa, K. Narita, K. Honda, T. Maeda: Effects of supplemental light on the quality of green asparagus cultivated by winter forcing culture. グリーンアスパラガスの冬季伏せ込み促成栽培における補光処理が品質に及ぼす影響. 園芸学会. 園学研., 12別2: 428, 2013.
- f-01. 植物の花のつくりと花粉の観察. 青森県教育委員会, 平成25年度サイエンス・サマーキャンプ. (中学生担当), 2013.
- f-02. 「ウメとサクラが同時に開花」ABA青森朝日放送ニュースコメンテータ. 2013年4月30日放送, 2013.

前田 智雄

- a-01. Maeda, T., T. Jishi, K. Honda, H. Araki, T. Suzuki and M. Suzuki: Methyl jasmonate treatment enhanced protodioscin biosynthesis in white asparagus (*Asparagus officinalis* L.) Spears. J. Japan. Soc. Hort. Sci., 81 (4): 337-342, 2012.
- a-02. Suzuki, T., T. Maeda, S. Grant, G. Grant. P. Sporns: Confirmation of fructans biosynthesized in vitro from [^{13}C] glucose in asparagus tissues using MALDI-TOF MS and ESI-MS. J. Plant. Physiol., 170: 715-722, 2013.
- d-01. 豊田弥生・本多和茂・前田智雄・岡部有紀・山田いづみ・佐藤 嶺・加藤芳文・近藤哲也・石川幸男・山岸洋貴・大橋秀規: 北海道および東北のカタクリ地域個体群における種子繁殖実態の解明. 東北植物学会第2回大会 (弘前大学), 2012.
- d-02. 前田智雄・山口貴之: 北日本の気候特性を活かした農業の試み. 第28回寒地技術シンポジウム (弘前市). 寒地技術論文・報告集, 28: 480-482, 2012.
- d-03. 山口貴之・前田智雄: アスパラガス幼苗における生育ステージ依存的休眠導入の品種間差. 園芸学会 (東京農工大). 園学研., 12別1: 145, 2013.
- d-04. 前田智雄・渡邊明優美・奥 聡史・本多和茂・小山内祥代・山崎 篤: タマネギリん茎に含まれるフルクトオリゴ糖のHPLC/ELSD法による解析. 園芸学会 (東京農工大). 園学研., 12別1: 378, 2013.
- d-05. 橋下 愛・園田高広・前田智雄: 培土がアスパラガス茎枯病の発生に及ぼす影響. 園芸学会 (東京農工大). 園学研., 12別1: 382, 2013.
- d-06. 常盤秀夫・元木 悟・松永邦則・浦上敦子・清水 佑・飯塚明範・山口貴之・北澤裕明・芳賀紀之・北條怜子・細田絢子・大中創太・柘植一希・樋口洋子・春原奈々・寺崎 亮・池浦博美・前田智雄: アスパラガス伏せ込み促成栽培に用いる株養成圃場における作型前進のための改良マルチ栽培法の検討. 園芸学会 (岩手大学). 園学研., 12別2: 179, 2013.
- d-07. 尾崎行生・岩戸美由紀・前田智雄・松元 賢・大久保敬: アスパラガス, ハマタマボウキおよびそれらの雑種個体に含まれるプロトディオシン. 園芸学会 (岩手大学). 園学研., 12別2: 184, 2013.
- d-08. 前田智雄・渡邊明優美・奥 聡史・本多和茂・小山内祥代・山崎 篤: 青森県弘前市にて2月まき栽培を行ったタマネギにおける諸形質の品種間差異. 園芸学会 (岩手大学). 園学研., 12別2: 419, 2013.
- d-09. Wambrauw, D., T. Kashiwatani, A. Komura, H. Hasegawa, K. Narita, K. Honda, T. Maeda: Effects of supplemental light on the quality of green asparagus cultivated by winter forcing culture. グリーンアスパラガスの冬季伏せ込み促成栽培における補光処理が品質に及ぼす影響. 園芸学会 (岩手大学). 園学研., 12別2: 428, 2013.
- d-10. 佐藤大和・叶 旭君・前田智雄・松崎正敏・張 樹槐: 分光反射情報によるアスパラガス内部品質の非破壊的予測に関する研究. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨: 238, 2013.

叶 旭君

- d-01. 張 樹槐・成瀬哲郎・叶 旭君・松本和浩: 赤肉リンゴ「紅の夢」の果肉着色度の非破壊予測に関する研究. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨: 91, 2013
- d-02. 佐藤大和・叶 旭君・前田智雄・松崎正敏・張 樹槐: 分光反射情報によるアスパラガス内部品質の非破壊的予測に関する研究. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨: 238, 2013
- d-03. 張 樹槐・叶 旭君: 日陰処理によるサクラの開花遅延に関する実証研究—2010~2012年の3ヶ年の実験結果について—. 平成25年度農業機械学会東北支部大会研究発表会要旨集: 13-14, 2013
- d-04. 趙 鉄軍・酒井憲司・東 達哉・小松崎将一・叶 旭君: Andisols soil nitrogen assessment by using portable hyper-spectral camera. 第72回農業食料工学会年次大会講演要旨: 259, 2013.
- d-05. Ye, X., L. Jimeng, K. Sakai, T. Zhao: Estimation and visualization of nitrogen content in citrus canopy using hyperspectral imagery. Proceedings of IEEE 5rd Workshop on Hyperspectral Image and Signal Processing:

Evolution in Remote Sensing (WHISPERS), 2013.

- d-06. Zhao, T., K. Sakai, T. Higashi, M. Komatsuzaki, X. Ye: Application of portable hyper-spectral camera in Andisol soils nitrogen assessment. Proceedings of IEEE 5rd Workshop on Hyperspectral Image and Signal Processing: Evolution in Remote Sensing (WHISPERS), 2013.
- f-01. 大下誠一・叶 旭君・牧野義雄・川越義則・篠崎 聰・比留間直也: 鮮度測定方法および鮮度測定装置, 特許第5171366号 (2013年1月11日登録), 2013.

田中 紀充

- d-01. 岸本結香・田中紀充・和田雅人・守谷 (田中) 友紀・村松 昇・小森貞男・荒川 修: リンゴの種子形成が果実肥大および果実品質に及ぼす影響. 園芸学会 (東京農工大). 園学研., 12別1: 264, 2013.
- d-02. 田中紀充・佐藤 充・岸本結香・松本省吾・守谷 (田中) 友紀・小森貞男・荒川 修: リンゴの種子形成が果実細胞に及ぼす影響. 園芸学会 (東京農工大). 園学研., 12別1: 266, 2013.
- d-03. 孔 慶蓮・賀澤智教・荒川 修・張 樹槐・田中紀充: 果実表面色の機械測定による赤ナシ系ニホンナシの成熟度判定. 園芸学会 (東京農工大). 園学研. 12別1: 272, 2013.
- d-04. 田中紀充・和田雅人: 単為結果リンゴ品種の解析. 園芸学会 (岩手大学). 園学研., 12別2: 38-39, 2013.
- d-05. 和田雅人・田中紀充・守谷 (田中) 友紀・花田俊男・本多親子・岩波 宏・小森貞男: リンゴMdPI抑制リンゴの解析. 園芸学会 (岩手大学). 園学研., 12別2: 70, 2013.
- d-06. 荒川 修・平岡麻由美・吉田 仁・張 樹槐・田中紀充: 3Dカメラによるリンゴ果実の肥大特性の計測. 園芸学会 (岩手大学). 園学研., 12別2: 283, 2013.

【食農経済コース】

神田 健策

- a-01. 神田健策・大島一二編著: 中国農業の市場化と農業農民專業合作社の展開 (筑波書房): 1-206, 2013.
- e-01. 石塚哉史・澤口頼太・神田健策: りんどう産地における独自品種開発と輸出振興の現状と課題—岩手県八幡平市の事例を中心に—. 日本農業経済学会 (東京農業大学), 2013.
- e-02. 神田健策・黄 孝春・Carpenter, Victor: 農産物の知財マネジメントとりんご生産販売システムの新動向—ピンクレディーの事例を中心に—. 日本農業経済学会 (東京農業大学), 2013.
- e-03. 石塚哉史・神田健策: 台湾における青森県産りんご販路確保の現状と課題に関する一考察. 日本農業市場学会2013年度大会個別報告 (新潟大学), 2013.
- f-01. 成田拓未・神田健策: 中国におけるブドウの生産・流通・消費調査報告書. 中央果実基金, 2012.
- f-02. 神田健策: 書評 田野光彦著『戦後日本の家族農業経営と継承問題』. 農業経済研究 (日本農業経済学会編), 85-1: 29-61, 2013.
- f-03. 神田健策他: 青森県農林水産振興のための第六次産業ビジョン策定について. 第六次産業研究会: 青森の自然・農業と地域振興. 農学生命科学部50周年事業報告書 (弘前大学農学生命科学部): 129-136, 2013.

渋谷 長生

- d-01. 渋谷長生: 東日本大震災・TPP参加と農業・農村の課題. 平成25年度農業農村工学会東北支部総会特別講演, 2013.
- f-01. 渋谷長生: 「想定外」で事は済まされない. あおもり農業, 63 (11): 92-93, 2012.
- f-02. 渋谷長生: 世羅っとした梨ランニングウォーターが売れている—売れる商品作りのヒント. あおもり農業, 63 (12): 90-91, 2012.
- f-03. 渋谷長生: 活動の輪広がる被災地復興のための「食のみやぎ復興ネットワーク」. あおもり農業, 64 (1): 92-93, 2013.
- f-04. 渋谷長生: 果樹農家が果樹共済に加入する要因を模式図として整理した. あおもり農業, 64 (3): 76-78, 2013.
- f-05. 渋谷長生: 米粉加工品の販売戦略—平川市高砂食品の取り組み. あおもり農業, 64 (4): 110-111, 2013.
- f-06. 渋谷長生: 安倍首相のTPP交渉参加表明に対する岩手農科大学学長声明. あおもり農業, 64 (5): 106-107, 2013.
- f-07. 渋谷長生: 全国の大学教員がTPP交渉参加撤回を求めている. あおもり農業, 64 (6): 92-93, 2013.
- f-08. 渋谷長生: TPP参加による農林水産業をはじめとする産業の生産・雇用への影響試算を発表. あおもり農業, 64 (7): 92-93, 2013.

- f-09. 渋谷長生：大学教員がTPP参加による都道府県別の影響試算を公表. あおもり農業, 64 (8): 92-94, 2013.
- f-10. 渋谷長生：第3次TPP影響試算の結果発表「TPPによる農業生産額の減少は都市部にも甚大な影響を与える」. あおもり農業, 64 (9): 92-94, 2013.

石塚 哉史

- a-01. 石塚哉史：食品企業による加工食品輸出の現状と課題に関する一考察—味噌, こんにゃくの事例を中心に—. 農林業問題研究, 190: 160-165, 2013.
- a-02. 泉谷眞実・房 家琛・石塚哉史・松崎正敏：中国における食品製造副産物利活用システムに関する事例分析—りんごジュース製造副産物リサイクル・システムの日中比較研究—. 農村経済研究, 31 (1): 102-107, 2013.
- a-03. 石塚哉史・相良百合子：中国系食品企業における対日野菜輸出の現段階と展望—山東省産にんにく・ごぼうの事例を中心に—. 農村経済研究, 31 (1): 108-114, 2013.
- b-01. 石塚哉史：肥料・農業市場. 玉真之介・美土路知之・泉谷眞実編：食料・農業市場研究の到達点と展望（筑波書房）：63-69, 2013.
- b-02. 石塚哉史：内陸農村の地域特産物による対日輸出産地の展開と課題—雲南省におけるこんにゃくいもの事例を中心に—. 神田健策・大島一二編. 中国農業の市場化と農村合作社の展開（筑波書房）：177-196, 2013.
- b-03. 石塚哉史・神代英昭編著：農産物輸出戦略の現段階と展望（筑波書房）：1-163, 2013.
- c-01. 西尾 漢・鈴木 亮・並河信太郎・石塚哉史・岡部陽造・桂 幸一・魚坂 隆・石田直人：環境・公害と食教育. 日本の教育—第62集—（アドバンテージサーバー）：245-257, 2013.
- d-01. 石塚哉史：食品企業による加工食品輸出の現状と課題に関する一考察. 第62回地域農林経済学会大会（大阪経済大学）, 2012.
- d-02. 石塚哉史・澤口頼太・神田健策：りんご産地における独自品種開発と輸出事業の現状と課題—岩手県八幡平市の事例を中心に—. 2013年度日本農業経済学会大会（東京農業大学）, 2013.
- d-03. 石塚哉史・神田健策：台湾における青森県産りんご販路確保の現状と課題に関する一考察—台南市の事例を中心に—. 2013年度日本農業市場学会大会（新潟大学）, 2013.
- d-04. 相良百合子・石塚哉史：小豆産地におけるブランド管理戦略の現段階と課題—「丹波大納言」の事例を中心に—. 2013年度日本農業市場学会大会（新潟大学）, 2013.
- d-05. 石塚哉史：東日本大震災・原発事故以降における加工食品輸出の今日的展開. 2013年度食農資源経済学会第7回大会（別府大学）, 2013.
- e-01. 石塚哉史：農産物輸出産地における農協事業の展開と課題に関する実証的研究. 全国農業協同組合中央会編. 協同組合奨励研究報告第38輯（家の光出版）：55-72, 2012.
- e-02. 石塚哉史：食の問題. 2012年母と女性教職員の会全国集会報告集：66-69, 2013.
- e-03. 石塚哉史：「グローバル体制下の青森県産にんにく・ごぼうにおける生産・流通の現段階と課題に関する実証的研究」. 平成23年度農業経営等支援事業成果報告書：1-37, 2013.
- e-04. 石塚哉史：黒竜江省佳木斯市の原料加工企業における小豆流通の今日的展開—佳木斯市A有限公司の事例を中心に—. 現代中国研究拠点研究シリーズNo. 12, 中国雑豆研究報告(1) 全国・東北編（東京大学社会科学研究所）：108-114, 2013.
- f-01. 石塚哉史：青森県と日本農業—日本の農業問題を理解し, 青森県農業と世界の繋がりを考える—. 弘前大学生涯学習教育研究センター・三沢市教育委員会三沢市公開講座「青森の現代と生涯学習」（三沢市）, 2012.
- f-02. 石塚哉史：小豆における地域ブランド戦略の現段階と課題. 東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点「第1回中国雑豆研究会講演会」（東京大学社会科学研究所）：2012.
- f-03. 石塚哉史：国際化時代におけるりんごの生産・販売. つがる弘前農業協同組合大鰐地区総代連絡協議会（大鰐町）, 2013.
- f-04. 石塚哉史：グローバル化の中でのこんにゃく生産・流通の現状と課題について. 一般社団法人とちぎ農産物マーケティング協会平成24年度こんにゃく生産・流通研究大会（宇都宮市）, 2013.
- f-05. 名和和恵・向井克之・石塚哉史：こんにゃく製造とグルコシルセラミド. 食品と開発, 48: 79-81, 2013.
- f-06. 石塚哉史：グローバル体制下における地域農業と教育・研究活動. 地域農業と農協, 42 (4): 4-8, 2013.
- f-07. 石塚哉史：わさび産地における規格外品を利活用した輸出事業の展開—静岡県I農協の事例を中心に—. 農業および園芸, 88 (4): 447-452, 2013.
- f-08. 暁 剛・李 海訓・石塚哉史：中国産小豆の生産輸出にみられる近年の縮小・変動傾向をどう捉えるか. 東京大学社会科学研究所現代中国研究拠点「第4回中国雑豆研究会講演会」（東京大学社会科学研究所）, 2013.

- f-09. 石塚哉史：台湾における青森県産りんごの販売状況。世界のりんご生産・流通動向—ヨーロッパ・中国・台湾・チリなどのりんご最新事情—。弘前大学農学生命科学部附属りんご振興研究センター「第18回りんごトーク」(弘前大学), 2013.

泉谷 眞実

- a-1. 斎藤 渡・泉谷眞実：積雪寒冷地における稲わらの処理・利用方式の特質。弘前大学農学生命科学部学術報告, 15: 1-5, 2013.
- a-2. 泉谷眞実・房 家琛・石塚哉史・松崎正敏：中国における食品製造副産物の利活用システムに関する事例分析—りんごジュース製造副産物リサイクル・システムの日中比較研究—。農村経済研究, 31 (1): 102-107, 2013.
- b-1. 美土路知之・玉真之介・泉谷眞実編著：食料・農業市場研究の到達点と展望。(筑波書房), 2013.
- b-2. 泉谷眞実：バイオディーゼル燃料製造事業者の類型と存立条件。野中章久編著 国産ナタネの現状と展開方向(昭和堂): 263-271, 2013.
- d-1. 泉谷眞実・斎藤 渡：積雪寒冷地における未利用バイオマス処理・利用方式の特質。第5回廃棄物資源循環学会東北支部研究発表会報告(仙台市), 2013.
- d-2. 泉谷眞実：イネ・バイオマスとしてのもみ殻の地域需給構造と固形燃料化の課題—青森県を対象として—。日本農業市場学会2013年度大会個別報告(新潟大学), 2013.
- d-3. 小野 洋・野中章久・泉谷眞実：リンゴ剪定枝再資源化の可能性。第56回東北農業試験研究発表会(盛岡市), 2013.
- d-4. 泉谷眞実：後産地における木質バイオマス燃料の需給不整合問題—青森県における木質ペレット燃料の地域市場を対象として—。第49回東北農業経済学会福島大会個別報告(福島大学), 2013.
- e-1. 泉谷眞実：米生産調整におけるバイオエタノール製造事業の課題。青森の自然・農業と地域振興 農学生命科学部50周年事業報告書(弘前大学), 2012.
- e-2. 殿内暁夫・吉田 孝・泉谷眞実・武田 潔：農産物、農産廃棄物等からの生分解性プラスチック原料(乳酸等)の生産に関する研究。青森の自然・農業と地域振興 農学生命科学部50周年事業報告書(弘前大学), 2012.
- f-1. 泉谷眞実：バイオマスってなに?進めよう!バイオマスの活用。バイオマス資源活用講演会(むつ市), 2012.
- f-2. 泉谷眞実：リンゴ経営と未利用資源の活用。平成24年度 生物共生教育研究センター公開講座。りんごを科学する(弘前市), 2012年.
- f-3. 泉谷眞実：地域農業の問題を考える。平成25年度社会教育主事講習(弘前市), 2013.
- f-4. 泉谷眞実：農業未利用資源の活用と6次産業化。アグリカレッジ2013(弘前大学), 2013.

武田 共治

吉仲 怜

- a-1. 森瀬礼菜・渋谷長生・吉仲 怜：農産物直売所におけるレジ接客の現状と課題。農村経済研究, 31 (1): 123-128, 2013.
- b-1. 吉仲 怜：農協主導による冷凍野菜加工事業の現段階と輸出展開。わが国における農産物輸出戦略の現段階と展望。第5章。(筑波書房): 93-109, 2013.
- d-1. 吉仲 怜・小沢 互・藤科智海：飼料用米供給側における生産者組織化の特徴と意義。東北農業経済学会福島大会個別報告(福島大学), 2013.
- e-1. 吉仲 怜：秋田県北部の事例をもとにした飼料用米生産の農業経営と地域社会に与える効果との比較。自給飼料を基盤とした国産畜産物の高付加価値化技術の開発。農林水産省委託プロジェクト研究平成24年度課題成績書: 315-316, 2013.
- e-2. 小沢 互・藤科智海・吉仲 怜：耕種農家と畜産業の連携によるコスト低減と付加価値化—飼料用米生産主要県の山形県(養豚業)と青森県(養鶏業)を対象に—。平成24年度畜産関係学術研究委託調査報告書(農畜産業振興機構), 2013.

【地域環境工学科】

泉 完

- a-01. 泉 完・大田敏貴*・東 信行：河川水を用いた遊泳実験によるシロウオの遊泳能力と尾部の動き，農業農村工学会論文集，No.283: 41-50, 2013. 2. (*長野県松本地方事務所)
- d-01. 泉 完・東 信行：メダカの臨界遊泳速度に関する実験（予報），平成24年度農業農村工学会応用水理研究部会講演集，38-43, 2012.12.
- f-01. 泉 完：連載講座―「魚道に関する最新の研究」―，ホットライン東海（10月号～9月号），東海農政局土地改良技術事務所，2013.
- f-02. 泉 完：魚道を利用する魚の尾ひれの動きと遊泳速度，東海の水士保全，第6号，7-13, 2012. 12.
- f-03. 泉 完：魚道を利用する魚の尾ひれの動きと遊泳速度(2)，東海の水士保全，第7号，10-25, 2013. 3.

工藤 明

- d-01. 工藤 明・徐 愷漪：河川構造物が下流の水環境に与える影響(1)，農業農村工学会東北支部第55回研究発表会要旨：136-139, 2012. 10.
- d-02. 徐 愷漪・工藤 明・千葉 恵*：河川構造物が下流の水環境に与える影響(2)，農業農村工学会東北支部第55回研究発表会要旨：140-143, 2012. 10. (*東北農政局整備部設計課)
- e-01. 工藤 明：水田地帯からの流出負荷を軽減する水管理について．青森の自然・農業と地域振興～農学生命科学部50周年事業報告書：81-84, 弘前大学農学生命科学部全138頁，2012. 10.

佐々木 長市

- a-01. Sasaki, C., K. Sasaki, N. Matsuyama, A.Tonouchi and T. Sase: Characteristic of brown forest soil in Shirakami Natural Science Park in southwest Aomori Prefecture. *Shirami-Sanchi*, 2: 9-15. 2013.
- a-02. Yoshida, W., L.Lu, C.Sasaki and S.Ishida: The first record of two freshwater planarians (*Phagocata sibirica*, *Phagocata* sp.) from Mt. Changbai water system in China, *Shirami-Sanchi*, 2: 1-8. 2013.
- a-03. Matsuyama, N., Karim, S., Sasaki, C., Aoyama, M., Seito, F., Fujisawa, H. and Saigusa, M.: Chemical and Physical Properties of Andosols in Aomori Prefecture Described in a Soil Survey Report on Reclaimed Land. *J. of Agronomy*, 11 (3): 73-78, 2012.
- b-01. 佐々木長市・松山信彦ほか：白神山地の土壤入門，弘前大学白神自然環境研究所，1-9, 28-42, 2013.
- d-01. 松山信彦・青山正和・佐々木長市・藤澤春樹・三枝正彦：開拓地土壌概要から見た東北地方に分布する黒ボク土の特徴，2013年日本土壌肥料学会講演会，名古屋，2013.
- d-02. 松山信彦・佐藤博友・松村真悟・浅利佳紀・佐々木長市：分げつを除去したマコモ (*Zizania latifolia* Turcz.) に対するケイ酸の効果，日本作物学会東北支部講演会，郡山，2013.
- d-04. 佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦・森谷慈彦：客土をもつカドミウム汚染水田の浸透型が稲体のカドミウム濃度に及ぼす影響(2)，平成25年度農業農村工学会講演会，2013.
- f-01. 白神山地の土壤入門，編集，2013.

檜垣 大助

- a-01. 日本地すべり学会河川砂防技術開発研究チーム（筆頭：檜垣大助）：東日本大震災における斜面変動発生の特徴とその類型化，日本地すべり学会誌，Vol.50-2, pp.25-30, 2013.
- a-02. 岡本有生・檜垣大助：地すべり活動を表す樹木の傾き―白神山地を例として―，日本地すべり学会誌，Vol.50-3, pp.28-34, 2013.
- b-01. Higaki, D., and S. Abe : Classification of the geology, geomorphology and movement types of earthquake landslides, Ugai, K., Yagi, H. Wakai, A. eds, *Earthquake-induced landslides*, pp.37-44, Springer, ISBN 978-3-642-32237-2, 2013.
- b-02. Dangol, V., Yagi, H. and D. Higaki : Bhedetar Landslide, Eastern Nepal: Aftermath of the Sikkim Earthquake, Ugai, K., Yagi, H. Wakai, A. eds, *Earthquake-induced landslides*, pp.31-36, Springer, ISBN 978-3-642-32237-2, 2013.
- d-01. 檜垣大助・綱木亮介・林 一成：AHP法を用いた地震による地すべり・崩壊危険地域評価手法の検討，H25年度砂防学会研究発表会（静岡），2013.

- d-02. 檜垣大助・工藤香菜・佐藤柚香・寺島柚葉・西澤 硬：白神山地で発生した寛政西津軽地震による地すべりと河道閉塞，平成24年度東北地理学会秋季大会（秋田），2012.
- d-03. Higaki, D.: Geological and geomorphological settings of landslides landslide occurrences by the 2011 Great East Japan Earthquake. The International Symposium in Commemoration of the 5th Anniversary of the 2008 Wenchuan Earthquake, Chengdu, 2013.
- d-04. Higaki, D., Yagi, H., Oi, H., Usuki, N., and K. Yoshino: A catastrophic flash flood caused by the high-altitude rockslides in the Nepal Himalaya, the 4th International Seminar of HATHI on Water Related Disaster Solution, Jogjakarta, 2013.
- d-05. 檜垣大助・千葉文絵・新沼威弘：宮城県気仙沼大島・宮戸島における地形条件を活用した東日本大震災からの復興検討，第52回日本地すべり学会研究発表会，松江，2013.

遠藤 明

- a-01. A. Endo, S. Mishima and K. Kohyama: Nitrate percolation and discharge in cropped Andosols and Gray lowland soils of Japan, *Nutrient Cycling in Agroecosystems*, Vol. 95, No.1, 1-21, 2013.
- a-02. D-J. Kang, A. Endo and Y-J. Seo: Effects of Soil Scraping on the Reclamation of Tsunami-Damaged Paddy Soil, *Journal of Crop Science and Biotechnology*, Vol. 16, No.3, 219-223, 2013.
- a-03. 伊藤大雄・石田祐宣・遠藤 明：気象観測データにもとづくリング園表層の土壌水分張力の簡易な推定，東北の農業気象, 57, 1-6, 2013.
- d-01. 遠藤 明・神山 啓：海岸付近の塩害水田土壌におけるリーチング特性と塩化物イオン濃度の挙動，2012年度農業農村工学会東北支部研究発表会講演要旨集, 14-15, 2012. 10.
- d-02. 伊藤大雄・石田祐宣・遠藤 明：気象観測データにもとづくリング園表層の土壌水分張力の簡易な推定，2012年度日本農業気象学会東北支部大会, 2012. 11.
- d-03. 遠藤 明・姜 東鎮・神山 啓：青森県太平洋沿岸地域の塩害農地における除塩方法の検討，2012年度土壤物理学会講演要旨集, 16-17, 2012. 11.
- d-04. 遠藤 明：農耕地土壌の環境測定ツール・解析ツールの試作とその適用事例，第51回農業農村工学会土壤物理研究部会研究会講演資料, 11-22, 2012. 11.
- d-05. 遠藤 明・姜 東鎮・神山 啓：青森県太平洋沿岸地域の塩害農地における塩化物イオン濃度の挙動，2013年度農業農村工学会大会講演要旨集, 474-475, 2013. 9.

加藤 幸

- a-01. Shigeoki Moritani, Tahei Yamamoto, Henintsoa Andry, Mitsuhiro Inoue, Koh Kato, Hirotaka Saito: Effect of combined water and salinity stress factors on evapotranspiration of *Sedum kamtschaticum* Fischer in relation to green roof irrigation, *Urban Forestry & Urban Greening* 12, 338-343, 2013. 07.
- d-01. 加藤 幸・伊藤 哲・三石正一・溝口 勝：地温を利用したリング開花予測モデルの優位性とその実用，平成25年度農業農村工学会大会要旨集CD, 2013. 09.
- d-02. 千葉克己・加藤 徹・加藤 幸・冠 秀昭・富樫千之：津波被災農地における地下水位および塩分モニタリング，平成25年度農業農村工学会大会要旨集CD, 2013. 09.
- d-03. 加藤 幸・伊藤 哲・三石正一・溝口 勝：園地情報をもとにした冬の厳しさの評価と農園管理の関連性，農業情報学会2013年度大会要旨集, 102-103, 2013. 05.
- d-04. 加藤 幸・伊藤 哲・三石正一・溝口 勝：生産現場におけるモニタリング技術の実践的利活用，農業情報学会2013年度大会要旨集, 41-42, 2013. 05.
- d-05. 加藤 幸・伊藤 哲・三石正一・溝口 勝：積雪地帯におけるリング園地の施肥方法とその検証，2012年度土壤物理学会大会講演要旨集, 18-19, 2012. 11.
- f-01. 加藤 幸：農園地情報を利用したリング栽培と技術継承の可能性，平成24年度弘前大学農学生命科学部附属生物共生教育研究センター公開講座, 2012. 12.

藤崎 浩幸

- a-01. 藤崎浩幸：観光と農山漁村の活性化—青森県観光における東日本大震災の影響および被災地域の観光産業への期待を通じて—，*農村計画学会誌*, Vol.31 (1), 33-36, 2012. 6
- a-02. 齋藤朱未・藤崎浩幸・広田純一：農家レストラン経営状況と地域への経済効果に関する事例分析，*農村計画学会誌*, vol.31 論文特集号, 213-218, 2012. 11
- d-01. 齋藤朱未・藤崎浩幸・広田純一：女性起業農家レストランに対する所在地域住民意識，*農村計画学会春期大会学*

術発表会要旨集, 32-33, 2013. 4

- d-02. 藤崎浩幸・大河原雄也・齋藤朱未：教育旅行受入組織を通じた農家民宿実践者の活動意向, 農業農村工学会大会講演会発表要旨集, CD-ROM, 2013. 9
- d-03. 齋藤朱未・藤崎浩幸：女性経営農家レストランが地域女性住民へ及ぼす意識の調査, 農業農村工学会大会講演会発表要旨集, CD-ROM, 2013. 9

丸居 篤

- d-01. 尾本翔次郎・丸居 篤・凌 祥之：水耕栽培における竹破砕物の培地特性と水分消費特性. 第93回農業農村工学会九州支部講演集, pp.190-191, 2012. 10
- d-02. 安福規之・古川全太郎・大嶺 聖・丸居 篤：国内栽培に向けたモンゴルにおける「カンゾウ」自生地の地盤環境調査とその評価. 第6回甘草に関するシンポジウム, Vol.1, pp.13-22, 2013. 7
- f-01. 丸居 篤：固定解除具, 捕獲装置および捕獲システム (特許出願) 2013. 5.
- f-02. 丸居 篤：スマホ活用新型わな—イノシシ被害軽減に期待—, 西日本新聞. 2013. 9. 24

森 洋

- a-01. 森 洋：東京港のごみ埋立地盤の安定化指標について, 農業農村工学会論文集, 第282号, 85-90, 2012.
- a-02. 森 洋：複合地盤を対象とした一軸圧縮試験と弾塑性有限要素解析, 農業農村工学会論文集, 第285号, 25-30, 2013.
- a-03. 森 洋：東北地方太平洋沖地震による東京港新木場埋立地の液状化調査, 農業農村工学会誌, 81 (7), 531-534, 2013.
- a-04. 森 洋・林 健次・宇都宮好博・大西健二：東京港の海底面判読に関する一考察, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.69, No.2, 1156-1161, 2013.
- d-01. 小林真貴子・藤原齊郁・堀越研一・石川敬祐・安田 進・森 洋：東北地方太平洋沖地震による新木場地区の噴砂メカニズムに関する考察, 第57回地盤工学シンポジウム, 59-64, 2012.
- d-02. 森 洋・原島 実・新井曜子：カオリン粘土による互層 (複合) 供試体でのUU試験, 第48回地盤工学会研究発表会, 737-738, 2013.
- d-03. 森 洋：2011年東北地方太平洋沖地震による東京港埋立地盤の間隙水圧挙動について, 第48回地盤工学会研究発表会, 1731-1732, 2013.
- d-04. 森 洋・新井曜子・原島 実：水平地盤内の地下水位を変化させた遠心場での動的液状化模型実験, 第48回地盤工学会研究発表会, 1745-1746, 2013.
- d-05. 森 洋：カオリン粘土による互層地盤の強度特性, 平成25年度農業農村工学会大会講演会, 638-639, 2013.

森谷 慈宙

- a-01. Shigeoki Moritani, Tahei Yamamoto, Henintsoa Andry, Mitsuhiro Inoue, Koh Kato, Hiroataka Saito: Effect of combined water and salinity stress factors on evapotranspiration of *Sedum kamtschaticum* Fischer in relation to green roof irrigation, *Urban Forestry & Urban Greening* 12, 338-343, 2013. 07.
- d-01. 山本太平・森谷慈宙・Andry Henintsoa：気象データベースを利用したマイクロ灌漑の用水計画, 平成25年度農業農村工学会大会要旨集CD, 2013. 09.
- d-01. 佐々木長市・佐々木喜市・松山信彦・森谷慈宙：客土をもつカドミウム汚染水田の浸透型が稲体のカドミウム濃度に及ぼす影響 (2), 平成25年度農業農村工学会大会要旨集CD, 2013. 09.

【生物共生教育研究センター】

伊藤 大雄

- a-01. 伊藤大雄・上原子毅・ニッ森祐里・泉 荘：食酢および酸性水を利用したリンゴ有機栽培における病害発生状況. 北日本病害虫研究会報, 63: 115-120, 2012.
- a-02. 伊藤大雄・石田祐宣・遠藤 明：気象観測データにもとづくリンゴ園表層の土壌水分張力の簡易な推定. 東北の農業気象, 57: 1-6, 2013.
- d-01. 伊藤大雄・石田祐宣・遠藤 明：気象観測データにもとづくリンゴ園表層の土壌水分張力の簡易な推定. 農業気象学会東北支部大会, 2012年11月1日（名取市）.
- d-02. ニッ森祐里・伊藤大雄：リンゴ有機栽培における水和硫黄剤散布, 落葉焼却あるいは雨よけ処理の病害抑制効果. 第66回北日本病害虫研究発表会, 2013年2月14~15日（秋田市）.
- d-03. 伊藤大雄・石田祐宣：リンゴ成木個体の光合成・蒸散速度を圃場で測定するための大型装置の製作. 園芸学研究, 12別1: 263（園芸学会大会, 2013年3月23~24日, 東京農工大学）.
- d-04. 伊藤大雄・石田祐宣：リンゴ園における土壌呼吸速度の季節変化・年次間差とその要因. 農業気象学会東北支部大会, 2013年9月1日（盛岡市）.
- f-01. 伊藤大雄：地球温暖化と青森県のリンゴ栽培. 公開講座「リンゴを科学する」（生物共生教育研究センター主催）講演要旨：1-8, 2012年12月2日.
- f-02. 伊藤大雄：地球温暖化・環境保全とこれからのリンゴ病害虫防除. 弘前市りんご共同防除連絡協議会幹部研修会, 2013年1月31日（平川市）.

姜 東鎮

- a-01. Ishii, Y., D.J. Kang, A. Yamano, S. Idota, K. Fukuyama: Adaptability and extension activity of dwarf napiergrass in southern Kyushu and elsewhere since its introduction to Japan 15 years ago. Revitalising grasslands to sustain our communities. Proc. 22nd Int'l Grassl. Congress. 2013. (*In press*)
- a-02. Kang, D.J., A. Endo, Y.J. Seo: Effects of soil scraping on the reclamation of tsunami-damaged paddy soil. J. Crop Sci. Biotech., 16: 219-223, 2013.
- a-03. Ishii, Y., K. Hamano, D.J. Kang, R. Kannika, S. Idota, K. Fukuyama, A. Nishiwaki: C₄-Napierrgrass cultivation for cadmium phytoremediation activity and organic livestock farming in Kyushu, Japan. J. Agric. Sci. Tech., 3: 321-330, 2013.
- d-01. 遠藤 明・姜 東鎮・神山 啓：青森県太平洋沿岸地域の塩害農地における除染方法の検討. 2012年度土壌物理学学会大会（とちぎプラザ, 帯広市）, 2012.
- f-01. 姜 東鎮：C₄植物ネピアグラスによる除染およびバイオエタノール利用可能性. 福島県浪江町復興支援プロジェクト活動状況報告会（福島県浪江町役場二本松市事務所）, 2013. 2. 21.
- f-02. 姜 東鎮：植物による環境修復：C₄イネ科牧草ネピアグラスでセシウム汚染土壌の浄化が可能か？ 福島県浪江町復興支援プロジェクト活動状況報告会（弘前大学50周年記念会館みちのくホール）, 2013. 2. 12.
- f-03. 姜 東鎮：除染研究の現状から見えてきた汚染農用地再生の可能性. 第15回弘前大学震災研究交流会（コラボ弘大八甲田ホール）, 2012. 12. 11.

松本 和浩

- a-01. 黒木克翁・竹村圭弘・松本和浩・武田 誠・富山政之・田村文男. シアナミド処理がニホンナシ主要品種の自発休眠打破および開花期に及ぼす影響. 園芸学研究, 12: 179-185. 2013.
- a-02. Takemura, Y., K. Kuroki, K. Matsumoto and F. Tamura. Cultivar and areal differences in the breaking period of bud endodormancy in pear plants. Scientia Hortic. 154: 20-24. 2013.
- a-03. Takemura, Y., K. Kuroki, K. Matsumoto, Y. Ban, T. Moriguchi and F. Tamura. Identification and expression analysis of candidate genes related to endodormancy induction and breaking in *Pyrus pyrifolia*. Scientia Horticulturæ. 155: 65-71. 2013.
- d-01. 黒木克翁・竹村圭弘・松本和浩・田村文男：冬季の低温不足条件下での芽の再成長に及ぼす台木種並びに地温の影響. 日本園芸学会春季大会（東京農工大学）, 2012.
- d-02. 佐藤早希・藤田知道・須藤宏樹・松本和浩：木炭混入堆肥による環境と身体にやさしいブランド野菜生産の可能性. 木質炭化学会（新潟市）, 2013.

- d-03. 張 樹槐・成瀬哲郎・叶 旭君・松本和浩：赤肉リンゴ「紅の夢」の果肉着色度の非破壊予測に関する研究. 農業食料工学会（帯広市）. 2013.
- d-04. 藤田知道・向後智陽・佐藤早希・前多隼人・荒川 修・松本和浩：除袋時期の差異が果肉の赤いリンゴ「紅の夢」および「御所川原」の着色に及ぼす影響. 日本園芸学会秋季大会（岩手大学）. 2013.
- d-05. 松本和浩・黒木克翁・前多隼人・藤田知道・佐藤早希・上平好弘・工藤重光：カットリンゴの試食による新規赤い果肉リンゴに対する消費者意識のアンケート調査. 日本園芸学会秋季大会（岩手大学）. 2013.
- d-06. 松本和浩：新たな市場開拓に向けた果肉まで赤いリンゴ新品種「紅の夢」の研究. 日本農芸化学会東北支部第13回若手の会. 招待講演.（弘前市）. 2012.
- d-07. 松本和浩：次世代リンゴのトレンドは「果肉の色」！～赤い果肉のリンゴ「紅の夢」の可能性～. 第6回レドックス・ライフイノベーション第170委員会. 招待講演.（弘前市）. 2013.
- d-08. 松本和浩：次世代のトレンド「赤い果肉のリンゴ」の可能性と研究・育種の現状. 第2回油化学セミナー サビにくい体する抗酸化食品の健康調節機能. 招待講演.（弘前市）. 2013.
- d-09. 松本和浩：復興のシンボルとしての花の価値一津波を受けても生き残った、青森県種差海岸のノハナショウブと地元の人々の心の結びつき一. 日本園芸学会秋季大会シンポジウム. 招待講演.（岩手大学）. 2013.
- f-01. 松本和浩・前多隼人・上平好弘・藤田知道・向後智陽・佐藤早希：果肉まで赤いりんご新品種の育成と実用化試験. アグリビジネス創出フェア. 東京ビックサイト. 2012.
- f-02. 前多隼人・松本和浩・上平好弘・藤田知道・向後智陽・佐藤早希：「紅の夢」の機能性解明と着色向上技術の開発. アグリビジネス創出フェア. 東京ビックサイト. 2012.
- f-03. 上平好弘・松本和浩・前多隼人・藤田知道・向後智陽・佐藤早希：地域と一体となった「紅の夢」の普及システムの構築. アグリビジネス創出フェア. 東京ビックサイト. 2012.
- f-04. 松本和浩：神様がくれたリンゴ「紅の夢」 弘大藤崎農場の挑戦 二つの偶然重なり誕生 ～生食できる赤い果肉～. 東奥日報朝刊. 2012. 11. 27.
- f-05. 松本和浩：神様がくれたリンゴ「紅の夢」 弘大藤崎農場の挑戦 着色の仕組みに2系統 ～赤くなる秘密～. 東奥日報朝刊. 2012. 11. 28.
- f-06. 松本和浩：神様がくれたリンゴ「紅の夢」 弘大藤崎農場の挑戦 袋で遮光, 一定の効果 ～障害克服への取り組み～. 東奥日報朝刊. 2012. 11. 29.
- f-07. 松本和浩：神様がくれたリンゴ「紅の夢」 弘大藤崎農場の挑戦 多様な販売へ地域連携 ～見た目と味 評判上々～. 東奥日報朝刊. 2012. 11. 30.
- f-08. 松本和浩：神様がくれたリンゴ「紅の夢」 弘大藤崎農場の挑戦 デビュー目指し開発中 ～新品種さらに2系統～. 東奥日報朝刊. 2012. 12. 1.
- f-09. 松本和浩：御存知ですか？ リンゴ新品種「紅の夢」～赤い果肉のリンゴ研究の現状とこれから～. 公開講座「リンゴを科学する」発表要旨29-34. 2012.
- f-10. 松本和浩・藤田知道・上平好弘・工藤重光：果肉まで赤く着色するリンゴ新品種「紅の夢」の普及に向けた実用化研究. 東北アグリビジネス創出フェア. 仙台市. 2012.
- f-11. 松本和浩：りんご栽培生理学講座③ 糖度と糖組成 リンゴの味はどう変わる？ りんごの道 4: 24-27. 2013.
- f-12. 松本和浩：りんごってどうやって大きくなるの？ リンゴの摘果. 生物共生教育研究センター主催親子体験学習講師. 2013.
- f-13. 松本和浩：弘前大学附属小学校りんご栽培体験学習講師. 2013.
- f-14. 松本和浩：種差海岸に自生するノハナショウブ～特徴と未来への提言～. 名勝種差海岸・鮫町の自然を守る会 発足15周年記念招待講演. 八戸市. 2013.
- f-15. 松本和浩：果肉まで赤いりんご新品種「紅の夢」の挑戦～白一色のりんご市場に新しい風を～. りんご技術. 93: 2-6. 2013.
- f-16. 藤田知道・上平好弘・松本和浩：赤果肉リンゴ新品種の栽培技術の確立と普及に向けた取り組み. 4校学術交流会. 八戸市. 2013.
- f-17. 松本和浩：りんご栽培生理学講座④ 過剰な日光は害になる？ 酸化ストレスの恐怖. りんごの道 5: 23-26. 2013.
- f-18. 松本和浩：地域とかかわりながら世界に向けた仕事がしたい！～私はコミュニティのために何ができるのか？～. 青森県立弘前南高校キャリアガイダンス講師. 2013.
- f-19. 松本和浩：弘前大学育成！生食できる果肉まで赤いリンゴ新品種「紅の夢」. みんなの農業広場. 注目の農業技術. 2013. 8.

- f-20. 松本和浩・藤田知道・佐藤早希：弘前大藤崎農場の最新研究～『紅の夢』等，赤い果肉のリンゴ・炭入り堆肥～，ひろさき産学官連携フォーラム 第16回イブニングフォーラム講演，弘前市，2013.
- f-21. 松本和浩：FM アップルウェーブ「津軽いじん館」出演，2013. 9.

房 家琛

- a-02. 泉谷眞実・房 家琛・石塚哉史・松崎正敏：中国における食品製造副産物の利活用システムに関する事例分析—りんごジュース製造副産物のリサイクル・システムの日中比較研究— 農村経済研究, 31 (1): 102-107. 2013.
- d-01. 秋元慶彦・小澤那奈・檜野 栞・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：めん羊妊娠後期の低タンパク給与が産子の増体，腹腔内脂肪量及び糖代謝調節能に及ぼす影響，日本畜産学会第116回大会（広島市），2013.
- d-02. 松崎正敏・房 家琛・鈴木裕之：リンゴジュース粕混合発酵飼料の多給が黒毛和種去勢牛の肥育成績に及ぼす影響，第63回東北畜産学会大会（山形市），2013.
- d-03. Islam, S.・房 家琛・鈴木裕之・松崎正敏：Apple pomace silage ethanol intake and its effect on blood metabolites in sheep. 日本畜産学会第117回大会（新潟大学），2013.